

高西遺跡Ⅲ

第3次調査発掘調査報告書

2025年3月

出雲市教育委員会

序

本書は令和 5 年度（2023）に出雲市塩冶町で実施した、宅地分譲地造成工事にともなう高西遺跡の埋蔵文化財発掘調査の記録を収録した報告書です。

遺跡名の「高西」は『出雲国風土記』記載の高岸郷の古地名「高岸」から変化した地名とされています。高西遺跡は弥生時代から鎌倉・室町時代にかけての遺跡です。今回の調査では、弥生時代中期から後期頃、飛鳥～奈良時代、平安時代と 3 時代の遺物が多く確認されています。

調査成果をまとめた本書が、地域の歴史と埋蔵文化財に対する理解と関心を高め、歴史学習の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にあたりご理解とご協力を賜りました関係者の皆様に対し、厚くお礼申し上げます。

令和 7 年（2025）3 月

出雲市教育委員会

教育長 杉谷 学

例　言

1. 本書は、令和 5 年度（2023）に出雲市文化財課が実施した、宅地分譲地造成事業にともなう高西遺跡の埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2. 発掘調査は、令和 6 年（2024）1 月 29 日～3 月 29 日の期間において実施した。

3. 発掘調査を実施した地番及び面積は、次のとおりである。

島根県出雲市塩冶町字有原 1728 番 2、1729 番 約 300m²

4. 調査は次の体制で実施した。

<令和 5 年度（2023）> 現地調査

調査主体 出雲市文化財課

事務局 森山賢次（出雲市市民文化部次長兼文化財課長）

三原一将（出雲市市民文化部文化財課主査）

吾郷尚志（ 同 課長補佐）

調査員 石原 聰（ 同 係長）

原 俊二（ 同 行政専門員）

調査補助員 馬庭範成、多々納達也

整理作業員 鵜口令子、中島和恵、前島浩子

発掘作業員 飯塚豊憲、伊藤貴敏、江角和樹、佐々木正、田邊宏行、寄廣和人、渡部和憲

調査指導 是田 敦（島根県教育庁文化財課 課長補佐）

<令和 6 年度（2024）> 報告書作成

調査主体 出雲市文化財課

事務局 山崎久美子（出雲市市民文化部文化財課長）

三原一将（出雲市市民文化部文化財課主査）

吾郷尚志（ 同 課長補佐）

調査員 石原 聰（ 同 係長）

原 俊二（ 同 行政専門員）

調査補助員 馬庭範成、多々納達也、高橋智沙都

整理作業員 鵜口令子、中島和恵、前島浩子

5. 本書で示した方位は真北を示す。座標は世界測地系第Ⅲ系座標に基づき、標高は海拔高を示す。

6. 本書掲載の遺物実測図については、調査員・調査補助員が作成した。遺物の写真撮影は石原が行った。本書の執筆・編集は、文化財課職員の協力を得て、石原が行った。

7. 本遺跡の出土遺物や実測図、写真は出雲市文化財課で保管している。

凡 例

- 本書で使用した遺構略号は次のとおりである。SK—土坑、SD—溝、SE—井戸
- 本書を作成するにあたり、編年について下記の参考文献を利用した。本文引用時には、略称を用いた。

【編年参考文献】

弥生土器

西岡睦夫・松本岩雄編 1992 『弥生土器の様式と編年』 - 山陽・山陰編 - 木耳社

須恵器・土師器

大谷晃二 1994 「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11号 島根考古学会

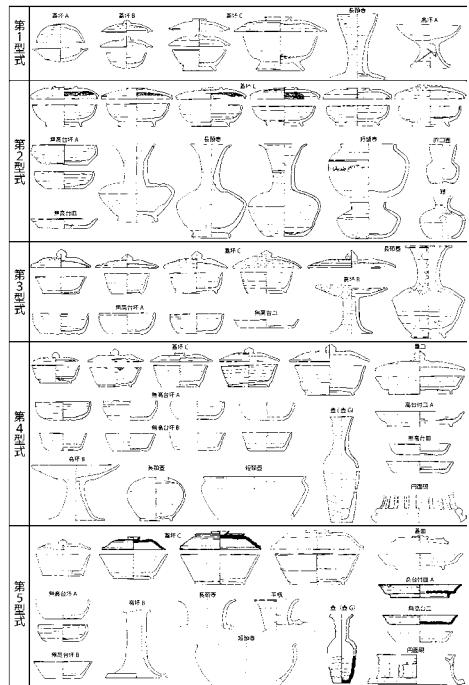
島根県教育委員会編 2013 『史跡出雲国府跡－9 総括編一』風土記の丘地内遺跡発掘調査報告

書22

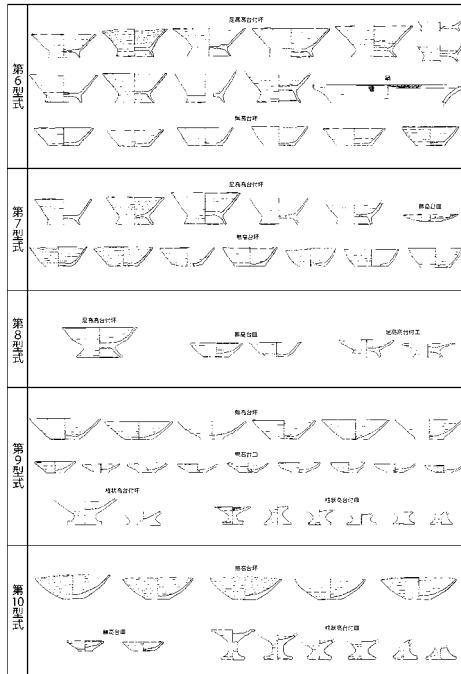
(出雲国府編年)

時期区分の基準資料と指標

歴年代	7C後葉	7C末葉～8C第1四半期	8C第2四半期	8C第3～第4四半期	8C末葉～9C前葉	9C中葉～後葉	10C前半	10C後半～11C前半	11C後半～12C前半	12C後半
型式名	第1型式	第2型式	第3型式	第4型式	第5型式	第6型式	第7型式	第8型式	第9型式	第10型式



第207図 出雲国府跡の土器変遷図(1) (S=1:6)



第210図 出雲国府跡の土器変遷図(4) (S=1:6)

(島根県教育委員会編 2013 を 1:10 で転載)

目 次

第 1 章 遺跡の位置と環境	1
第 1 節 地理的環境	1
第 2 節 歴史的環境	1
第 2 章 調査に至る経緯と経過	4
第 3 章 調査の成果	9
第 1 節 調査の概要	9
第 2 節 遺構の概要	9
第 3 節 遺物の概要	10
第 4 章 総括	25
第 1 節 溝 SD3001 について	25
第 2 節 土坑 SK3005 出土の刻書土器について	25
第 3 節 まとめ	27

挿図目次

第 1 図 高西遺跡と出雲平野周辺の主要な遺跡	2	第 13 図 溝 SD3001 最下層 3 層遺物実測図(1)	18
第 2 図 調査区の位置	4	第 14 図 溝 SD3001 の掘下げ状況 (北から)	18
第 3 図 調査区の位置と周辺の調査 (Tr はトレンチ調査)	5	第 15 図 溝 SD3001 最下層 3 層 遺物実測図 (2)	19
第 4 図 遺構配置図	6	第 16 図 溝 SD3001 最下層 3 層 遺物実測図 (3)	20
第 5 図 試掘トレーンチ (北壁) 断面図	6	第 17 図 溝 SD3001 最下層 4 層・ 南サブトレーンチ 遺物実測図	21
第 6 図 溝 SD3001 遺構平面図	10	第 18 図 井戸 SE3003 平面図	22
第 7 図 溝 SD3001 土層図	11	第 19 図 井戸 SE3003 遺物実測図	22
第 8 図 溝 SD3001 上層・中層遺物実測図	12	第 20 図 土坑 SK3002・溝 SD3004・ 土坑 SK3005 平面図・断面図・ 遺物実測図	23
第 9 図 溝 SD3001 下層遺物実測図	14	第 21 図 2 層黒色土 (遺物包含層) 遺物実測図	24
第 10 図 溝 SD3001 最下層 1 層 遺物実測図	15	第 22 図 遺跡周辺の標高図	26
第 11 図 溝 SD3001 最下層 2 層 遺物実測図 (1)	16	第 23 図 遺跡周辺図	27
第 12 図 溝 SD3001 最下層 2 層 遺物実測図 (2)	17		

写真図版目次

- | | |
|-------------------------|--|
| 図版 1 調査前・1 区 | 図版 8 SD3001 須恵器・土師器 |
| 図版 2 2 区全景 | 図版 9 SD3001 須恵器・弥生土器 |
| 図版 3 SD3001 (1) | 図版 10 SD3001 土師器・弥生土器・須恵器・
・・・・ 石製品 |
| 図版 4 SD3002 (2)・SK3002 | 図版 11 SE3003 SD3004 SK3005 須恵器・
弥生土器・土師器・金属関連 |
| 図版 5 SE3003・SD3004 | |
| 図版 6 SK3005・発掘調査の状況 | |
| 図版 7 SD3001 土師器・石器・金属関連 | |

第1章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

高西遺跡は出雲市塩冶町字有原に所在し、JR 出雲市駅の南西約 1.0km、出雲平野のほぼ中央部に位置する。出雲平野は東側を宍道湖、西側を日本海、南側を中国山地、北側を島根半島に囲まれた東西約 20km、南北約 5 km にわたる沖積平野である。平野は斐伊川と神戸川が運んだ土砂により形成され、現在では斐伊川は宍道湖に、神戸川は日本海に注いでいる。かつての平野西部には、大きな潟湖が広がっており、斐伊川と神戸川の両河川が流れ込んでいた。高西遺跡は潟湖に注ぎ込む神戸川北岸の標高約 8 m の微高地上に位置していたと考えられる。

第2節 歴史的環境

今回の高西遺跡の調査成果については、第3章で詳しく述べるが、弥生時代中期から後期を中心とした弥生土器、古墳時代から平安時代の須恵器、土師器を確認し、当地における人々の活発な活動の一端が明らかになった。本節では、鎌倉・室町までの出雲平野における人々の活動の様相を概観する(第1図)。

縄文時代

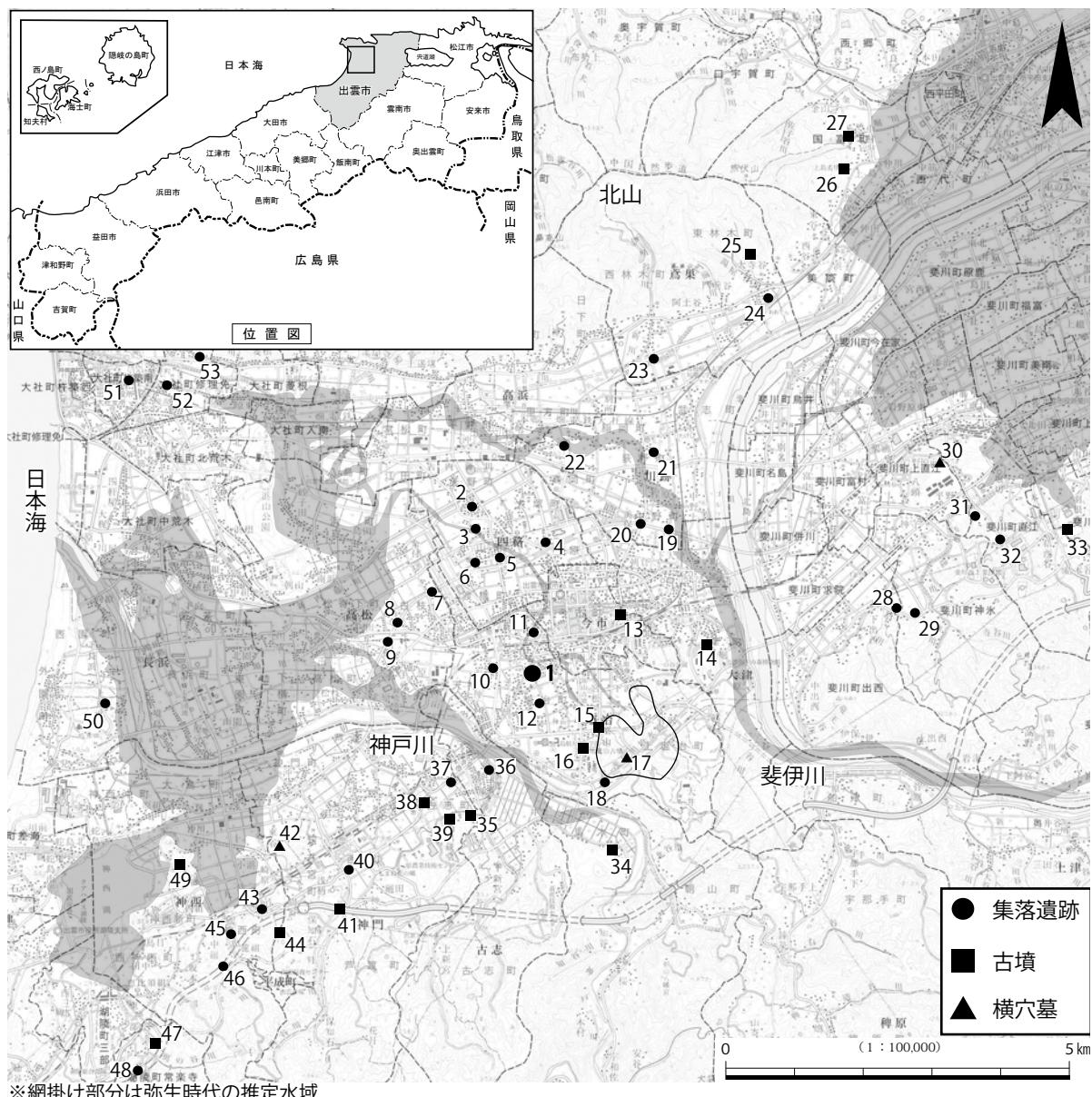
出雲平野において、人間の活動が確認されているのは縄文時代早期からで、押型文土器が出土した山持遺跡(23)などが知られ、海進により広がった内湾(古宍道湖)沿岸で人々は生活していたとみられる。後・晚期になると海退が進み、高西遺跡の北約 3 km の矢野遺跡(2)や蔵小路西遺跡(5)など平野の中央部にも遺跡が広がるようになる。

弥生時代

弥生時代前期には、矢野遺跡や山持遺跡などで縄文時代から継続して集落が形成される。中期以降、出雲平野の各所で急速に集落が発達し、大規模な遺跡群を形成するようになる。本遺跡も含まれる天神遺跡(10)を中心とした天神遺跡群、青木遺跡(24)を中心とした美談遺跡群、白枝荒神遺跡(7)や白枝本郷遺跡(8)を中心とした白枝遺跡群、古志本郷遺跡(36)や下古志遺跡(37)を中心とした古志遺跡群、中野清水遺跡(19)や中野美保遺跡(20)を中心とした中野遺跡群などが挙げられる。後期になると、平野南部の西谷墳墓群(14)で大型の四隅突出型墳丘墓が築かれるようになる。また、破鏡やガラス玉といった舶載品が出土した白枝荒神遺跡をはじめ、平野の各遺跡でも西日本の各地域や大陸との交流がうかがえる遺物が出土し、広域での活発な交流や出雲平野の勢力拡大を物語る。

古墳時代

古墳時代前期から中期にかけて、四絡遺跡群や古志遺跡群、白枝遺跡群、天神遺跡群といった平野部の各遺跡群では遺物の出土量が急激に減少することから、何らかの理由で衰退したと考えられる。墳墓に関しても、弥生時代後期の西谷墳墓群に続くような大規模な古墳は見当たらない。前期後半に



1. 高西遺跡
2. 矢野遺跡
3. 小山遺跡
4. 姫原西遺跡
5. 蔵小路西遺跡
6. 渡橋沖遺跡
7. 白枝荒神遺跡
8. 白枝本郷遺跡
9. 余小路遺跡
10. 天神遺跡
11. 海上遺跡
12. 神門寺付近遺跡
13. 今市大念寺古墳
14. 西谷墳墓群
15. 上塙治築山古墳
16. 上塙治地蔵山古墳
17. 上塙治横穴墓群
18. 三田谷I遺跡
19. 中野清水遺跡
20. 中野美保遺跡
21. 萩杼II遺跡
22. 高岡遺跡
23. 山持遺跡
24. 青木遺跡
25. 大寺1号墳
26. 上島古墳
27. 国富中村古墳
28. 後谷遺跡
29. 小野遺跡
30. 平野横穴墓群
31. 杉沢遺跡
32. 三井II遺跡
33. 結古墳群
34. 刈山古墳群
35. 放レ山古墳
36. 古志本郷遺跡
37. 下古志遺跡
38. 宝塚古墳
39. 妙蓮寺山古墳
40. 浅柄遺跡
41. 浅柄II古墳
42. 神門横穴墓群
43. 九景川遺跡
44. 北光寺古墳
45. 中上II遺跡
46. 麓II遺跡
47. 常楽寺柿木田1号墳
48. 京田遺跡
49. 山地古墳
50. 上長浜貝塚
51. 鹿藏山遺跡
52. 原山遺跡
53. 菱根遺跡

第1図 高西遺跡と出雲平野周辺の主要な遺跡

なると、出雲平野における最古の前方後円墳とされる大寺1号墳（25）が北山山麓に築かれる。前期後半から中期前半になると、平野南部の丘陵地帯で浅柄II古墳（41）や山地古墳（49）、常楽寺柿木田1号墳（47）、北光寺古墳（44）といった有力な古墳が多く築かれる。後期になると、平野南部の三田谷I遺跡（18）や九景川遺跡（43）のほか、平野部の各遺跡で再び集落形成が活発になる。集落の隆盛に呼応するように後期後半以降、古墳の築造も盛んになる。神戸川東岸の今市町や塩治町周辺

では、出雲最大の前方後円墳である今市大念寺古墳（13）のほか、上塩治築山古墳（15）や上塩治地蔵山古墳（16）といった、大型の横穴式石室をもつ古墳が築造される。これらの古墳は出雲西部の首長層が葬られたと考えられる。

神戸川西岸の古志町周辺でも、妙蓮寺山古墳（39）や放レ山古墳（35）、宝塚古墳（38）といった、横穴式石室をもつ有力な古墳が確認されている（山本 1964）。また、後期後半以降、上塩治横穴墓群（17）や平野横穴墓群（30）神門横穴墓群（42）といった横穴墓も出雲平野周辺で多く築かれている。

古代（奈良・平安時代）

奈良時代は、『出雲国風土記』の記述から、この時代の様子を知ることができる。それによると、現在の出雲市域は、4つの郡（出雲郡、神門郡、楯縫郡、秋鹿郡）にまたがる。当地域は、神門郡に属する。高西は風土記記載の高岸郷の古地名「高岸」から変化した地名とされる。神門郡家推定地とされる古志郡推定地とされる古志本郷遺跡（36）では、多数の大型建物が確認されている。また、天神遺跡、三田谷I遺跡、鹿蔵山遺跡、青木遺跡からは、官衙施設関連の遺構や遺物がみつかっている。このほか、古代寺院跡の神門寺境内廃寺、長者原廃寺では、瓦の出土や基壇等が確認されている。

中世（鎌倉・室町時代）

高西遺跡周辺は、鎌倉時代、出雲守護に補せられた佐々木義清の孫頼泰が塩治氏と称した。出雲平野での勢力を広げた塩治氏の本拠とされる地域であることから、城や館などの関連する遺跡が点在する。

塩治氏の城跡は、向山城跡、半分城跡が候補地である。館跡は、築山遺跡内、土壘が今も残る淨音寺にある伝塩治氏館跡などが想定されている。

築山遺跡からは、発掘調査により13～16世紀の陶磁器や館に関わる遺構が発見されている。

近世（戦国・江戸時代）・近代

斐伊川の東流は、出雲平野東部の平野の拡大を進めた。しかし、湿地帯が多く、大量の土砂の流入は河川の氾濫を頻発させたため、堤防工事や川の付け替え（川違え）などの治水工事と共に新田開発が進む。塩治では、神戸川の築堤により農業用水が不足し一時は不毛の地となつたが、高瀬川や間府川などの開削によって、斐伊川からの用水供給により、豊かな土地となり現在に至る。

参考文献

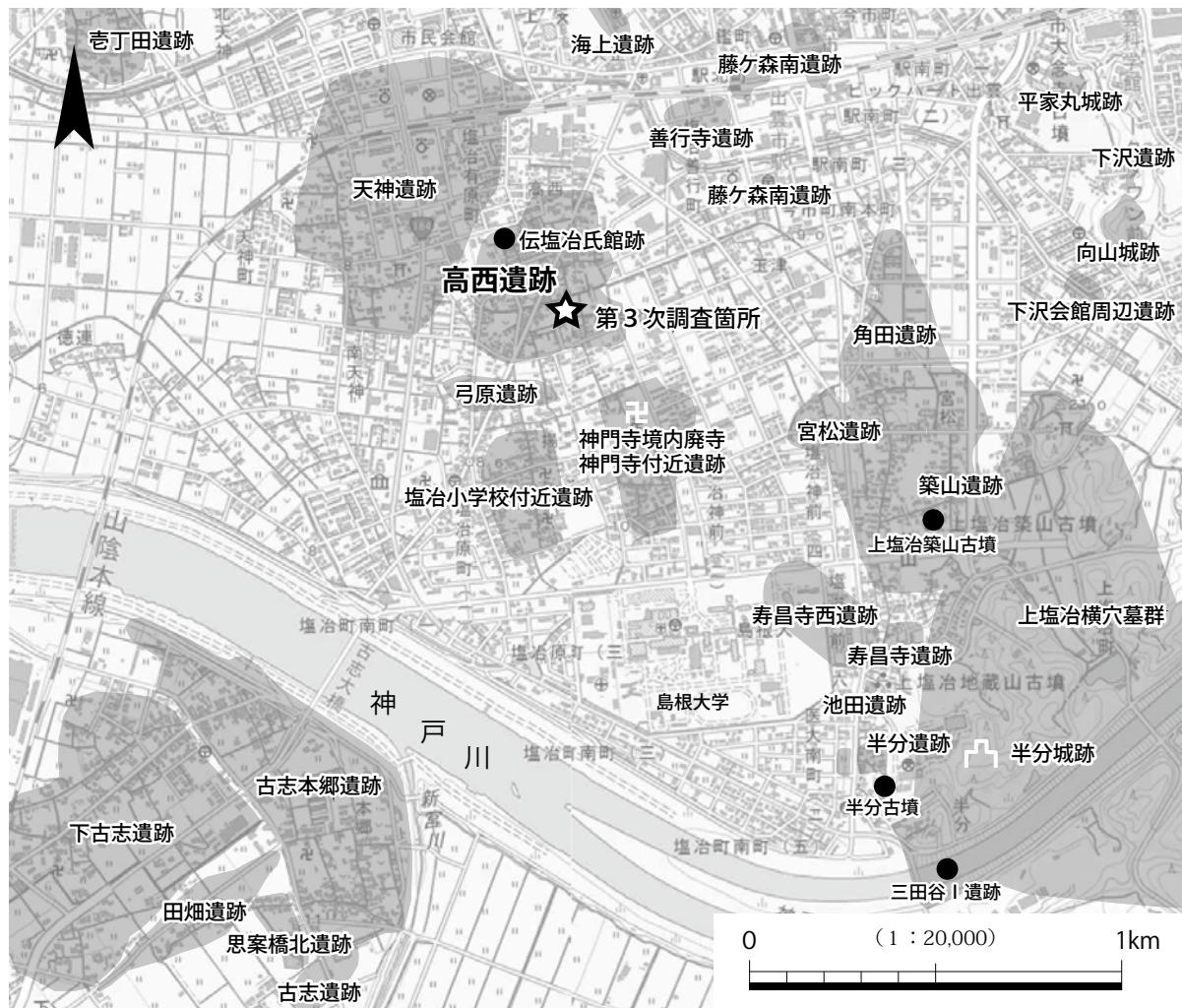
出雲塩治誌編集委員会 2009 『出雲塩治誌』

出雲市教育委員会 1997 『遺跡が語る古代の出雲—出雲平野の遺跡を中心として』

第2章 調査に至る経緯と経過

令和3年（2021）8月11日に高西遺跡の埋蔵文化財の照会を受けた。集合住宅の設計が決まり次第、対象地を範囲確認調査することとなり、令和3年（2021）9月10日に実施した（試掘調査結果については後述する）。範囲確認調査の結果、17ヶ所で設定したトレーンチのうち、事業地内西側を中心に遺構・遺物を確認した。その結果をもとに事業者と協議し、市道が拡幅となる300mについて、本発掘調査を実施することとなった（第3図）。なお、高西遺跡での発掘調査は、平成23年（2011）、平成29年（2017）に市道（医大前新町線）改良工事に伴って第1次、第2次の本発掘調査を実施している。今回の調査地点は2次調査の調査地から西へ100mの位置にあり、遺跡の南東部に位置する。

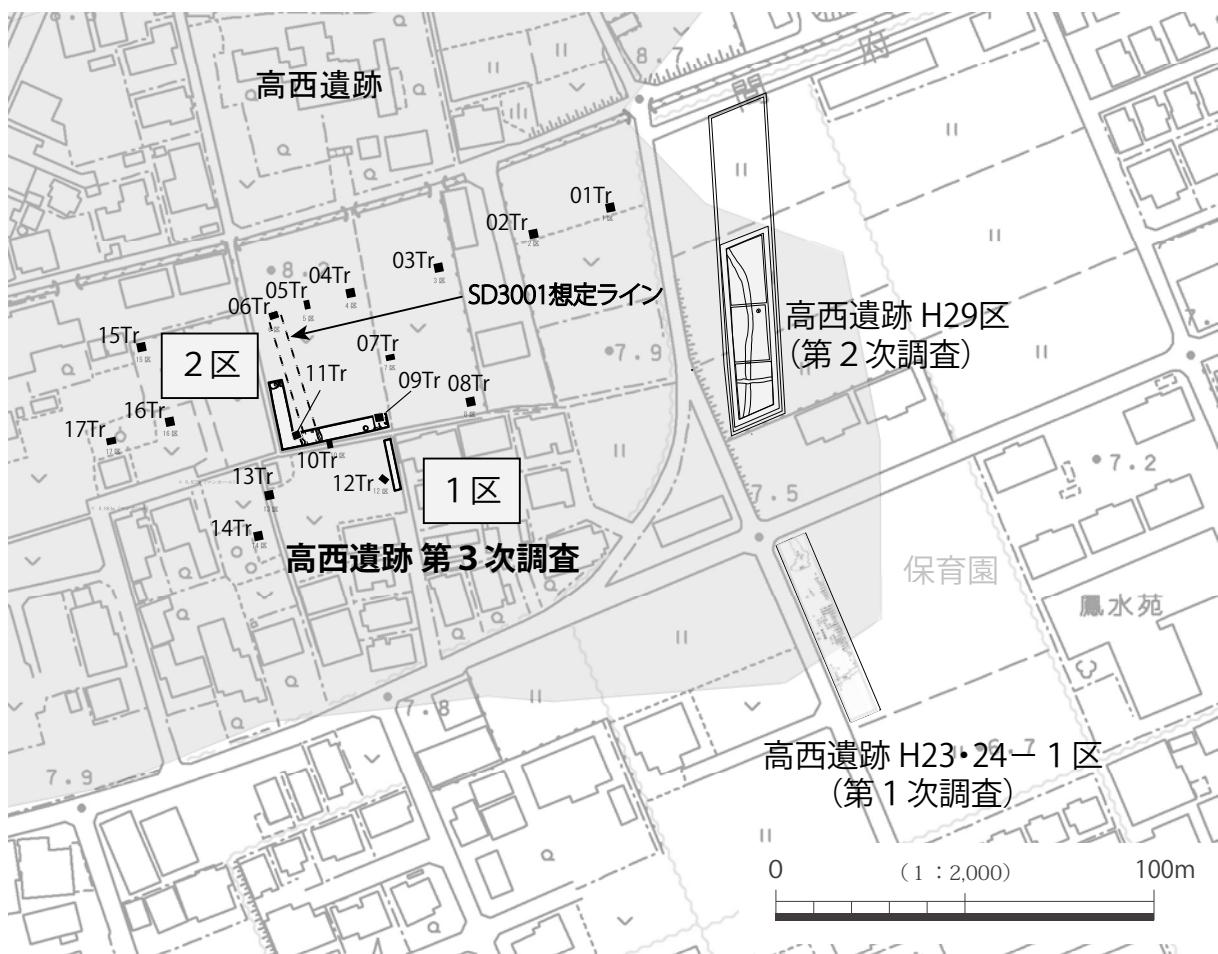
令和6年（2024）1月29日に重機を用いて表土層等を除去し、1月30日より人力による発掘を開始した。遺構面を精査し、確認した遺構は掘り下げて写真、図面による必要な記録を行い、3月29日に調査を終了した。



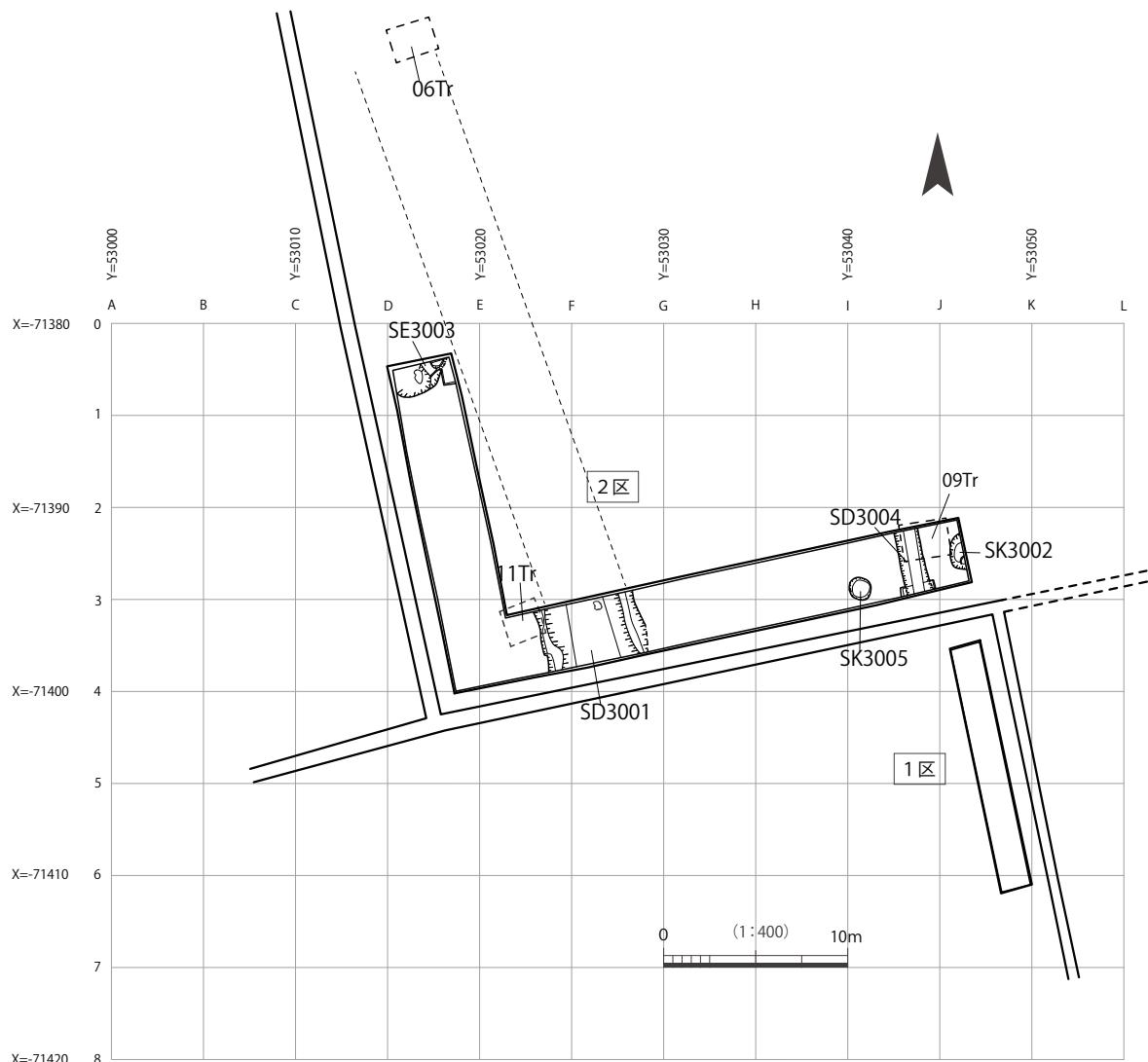
第2図 調査区の位置

<事務手続き>

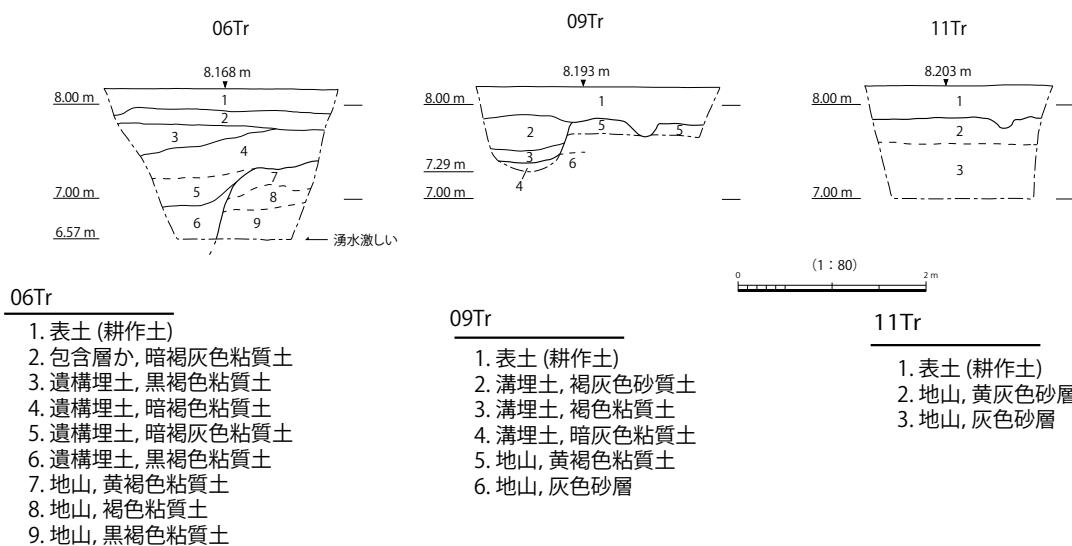
- 令和5年12月28日 事業者より島根県教育委員会へ、文化財保護法第93条第1項により埋蔵文化財発掘の届出を提出。
- 令和6年 1月 5日 島根県教育委員会より事業者へ、市道拡幅部分 300m²については発掘調査を行うよう指示。
- 1月 18日 出雲市教育委員会から島根県教育委員会へ、文化財保護法第99条第1項により埋蔵文化財発掘調査の通知を提出。
- 3月 29日 出雲市教育委員会から出雲警察署長へ、埋蔵物発見届を提出。
- 3月 29日 出雲市教育委員会から島根県教育委員会へ、遺物保管証を提出。
- 3月 29日 出雲市教育委員会から島根県教育委員会へ、遺跡の取扱いについて意見書を提出。
- 4月 12日 島根県教育委員会から出雲市教育委員会へ、埋蔵物の文化財認定及び帰属の通知。
- 4月 19日 島根県教育委員会から出雲市教育委員会へ、遺跡の取扱いに関する意見書の回答。



第3図 調査区の位置と周辺の調査 (Trはトレンチ調査)



第4図 遺構配置図



第5図 試掘トレンチ (北壁) 断面図 ($S = 1:80$)

<既往の調査について>

高西遺跡は、1970年代にその存在が確認されているものの、本格的な発掘調査は2011年まで行われておらず、昭和62年（1987）に実施した出雲市教育委員会による分布調査（註1）や同年度に実施された田中義昭氏（島根大学、当時）らによる分布調査等（註2）で採集された弥生土器、土師器、須恵器片等によって時期と範囲が推察されているのみであった。

その後、塩冶町から今市町を南北につなぐ約1.5kmの都市計画道路として出雲市が計画する市道（出雲市都市計画道路医大前新町線）の工事に伴って1次及び2次の2箇所での発掘調査を出雲市が実施している（註3）。

1次調査は、2011年に、400m²を発掘調査している。中世以降の溝、畝状遺構が確認でき、須恵器、土師器、陶磁器類、宋銭「祥符元寶」（1008年初鑄）が出土している。その後、2次調査報告書で、畝状遺構については、道路遺構にしばしばみられる南北の波板状凹凸面の可能性があると報告している。

2次調査は、1次調査より北へ約30mのところで2017年から2018年に610m²を調査した。南北の溝2条と土坑1基の遺構を確認し、遺物は弥生土器、石器、土師器、須恵器、陶磁器、種子札などが出土している。

いずれの調査区も微高地の高西集落から離れた縁辺部である。遺跡の性格の解明は今後の課題である。本報告も1次調査・2次調査の場所から比較的近く、縁辺部である可能性が高い。

<試掘調査の成果>

出雲市塩冶町字有原1729番地外において宅地造成が計画され、令和3年（2021）8月11日に出雲市文化財課へ周知の埋蔵文化財包蔵地に該当しているか照会依頼があった。確認の結果、事業地が高西遺跡に該当していたため、文化財保護法に基づく手続きが必要であることを伝達し、事前協議を開始した。同日中に現地確認をおこない、調査依頼書・同意書を送付した。8月24日には計画図面、調査依頼及び地権者の同意書を受理した。これを受け、8月26日に埋蔵文化財発掘調査を実施する旨を県教委に通知し、9月10日に現地調査を行った。

なお、本事業は国庫補助事業の市内遺跡確認調査事業として実施し、調査後、9月14日に事業者に結果報告をおこなった。また、出土遺物については、同日に埋蔵物発見届を出雲警察署長に提出、埋蔵文化財保管証を県教委に提出している。

事業予定地は東側が水田、西側が畑地である。現在耕作されておらず、支障物件等もなかった。地表面には土器細片が散布している状況であった。また、東側水田と西側畑地の間には約60cmの高低差があり、畑地が遺跡の中心に当たる可能性が当初から想定されていた。

調査は西側畑地から開始した。調査は試掘06トレンチ（以後Tr略す）・11Tr・8Tr・3Trの順でおこない、6Tr・8Trで遺構を確認したため4Tr・9Trを追加した。地山の質の変化が著しいことから、さらに5Tr・7Tr・10Trを追加して畑地の調査を完了した。東側水田は2Tr・1Trの順で実施し、約1m掘り下げたところで湧水が激しく、それ以上の掘り下げを中止した。以上、11区の調査区により、事業地における埋蔵文化財の状況を確認した。

東側水田に設定した 1・2 Tr は耕土・自然堆積層を経て、褐色砂礫層に至る。しまりが強く、地山の可能性がある。遺構・遺物は確認できず、褐色砂礫層からの湧水が激しく、これ以上の掘り下げを断念した。なお、2 Tr の自然堆積層は西に向かって緩やかに傾斜している状況であった。

西側畠地に設定した 3 Tr は、耕土、自然堆積層を経て、地山に至る。2 4 層は緩やかに東に向かって傾斜していた。微細な遺物を含む。土層の様相は 1・2 Tr に似る。

4・11 Tr は、耕土直下で地山もしくは遺構面に当たる点で共通しており（6 区 Tr2 層のみ遺物包含層）、6 Tr・8 Tr・9 Tr において遺構を確認した。遺構としては、溝（6 Tr・9 Tr）、ピット及び不明遺構（8Tr）がある。その他、11 Tr で東西方向に延びる落ち込みがあるが、遺構かどうかは不明である。また、6 Tr では須恵器・土師器が比較的まとまって出土した。地山は 4 Tr・6 Tr・7 Tr・8 Tr・9 Tr が黄褐色系の粘質土、5 Tr・10 Tr・11 Tr は砂であり、変化がある。

東側水田では、遺構・遺物ともに確認できなかった。一方、西側畠地では遺構・遺物、地山を確認し、埋蔵文化財が良好な状態で保存されていることが明らかになった。また、3 区の土層は 1・2 Tr の様相に酷似しており、3 区と 4 区の間で微高地が傾斜しているものと考えられる。

その後、事業者より事業範囲を拡大したいため、拡大予定部分における追加調査についての依頼が口頭であった。現地確認の上、10月 29 日に調査計画を示した。11月 15 日には調査依頼及び地権者の同意書を受理した。12月 2 日に現地調査をおこなった。調査区は 6 か所設定した。12～14Tr の GL はほぼ同じである。調査の結果、12Tr では GL-30cm で遺構面に達するものの、13Tr・14Tr と順に遺構面が傾斜していることが明らかになった。12Tr では比較的しっかりした溝状の落ち込みがあった。主軸はほぼ南北方向である。13Tr では複数の遺構が確認でき、埋土は 2 色（灰色・褐灰色）に分かれる。遺構の時期差を示している可能性が高い。14Tr では耕土と同色の溝が確認できた。

15～17Tr の GL は、12～14Tr より 50cm 以上高い。遺構面もしくは遺物包含層上面の標高は 17Tr に向かって高くなる。15・17Tr では遺構が確認された。

註1 出雲市教育委員会 1987 『塩冶地区遺跡分布調査報告』 II

註2 田中義昭・西尾克己 1988 「出雲平野における原始・古代集落の分布について」『山陰地域研究』第 4 号 島根大学山陰地域研究総合センター

註3 出雲市教育委員会 2013 『神門寺付近遺跡Ⅲ・高西遺跡』 出雲市の文化財報告 23

出雲市教育委員会 2019 『高西遺跡Ⅱ』 出雲市の文化財報告 40

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

工事予定範囲のうち、遺跡への影響が大きいと判断した市道拡幅部分、約300m²を対象に発掘調査を実施した。調査は重機を用いて耕作土を除去したあと、人力で遺構面まで掘り下げた。遺構面を精査して確認した遺構は掘下げて状況を確認し、必要な写真、図面などの記録をとった。また、調査区には世界測地系第Ⅲ系座標に基づいて、40×55mのグリッドを設定した。グリッドはX = -71380、Y = 53000の交点を基点として、5m間隔のグリッドを設けた。南に向けてアラビア数字(0、1、2・・・)を、東に向けてアルファベット大文字(A、B、C・・・)を付与した。グリッドの名称については、北西隅の交点の番号を基準とした(第4図)。遺構の位置については、グリッドを基準として記録した。遺物は基本的に遺構ごとに取り上げ、遺構外から出土したものについては、グリッドごとに取り上げた。

基本的な層序は上から1層：耕作土、2層：黒色土(遺物包含層)、3層：灰黄褐色砂質土(地山・遺構基盤上層)、4層：灰色砂質土(地山・遺構基盤層下層)の順である。

第2節 遺構の概要

1区では、後世の攪乱跡などにより、明確な遺構は確認できなかった。

2区では、下記の遺構を確認している。

溝 SD3001(第6・7図・図版3・4)

上面検出面で幅5.5mで、底面で幅2.0mの断面逆台形で、調査区の幅3.5m分を確認している。南北に走る溝である。先行して南壁際を掘削し(南側サブトレーニング)、便宜的に上層・中層・下層にわけて掘り下げた。上層・中層・下層とも土師器、須恵器が出土した。足高高台壺の土師器が特徴的であり、出雲国府第6～8型式の土器と考えられる。時期は9世紀中葉から11世紀前葉と平安時代の土器であり、溝の埋没時期も11世紀以降と考えられる。

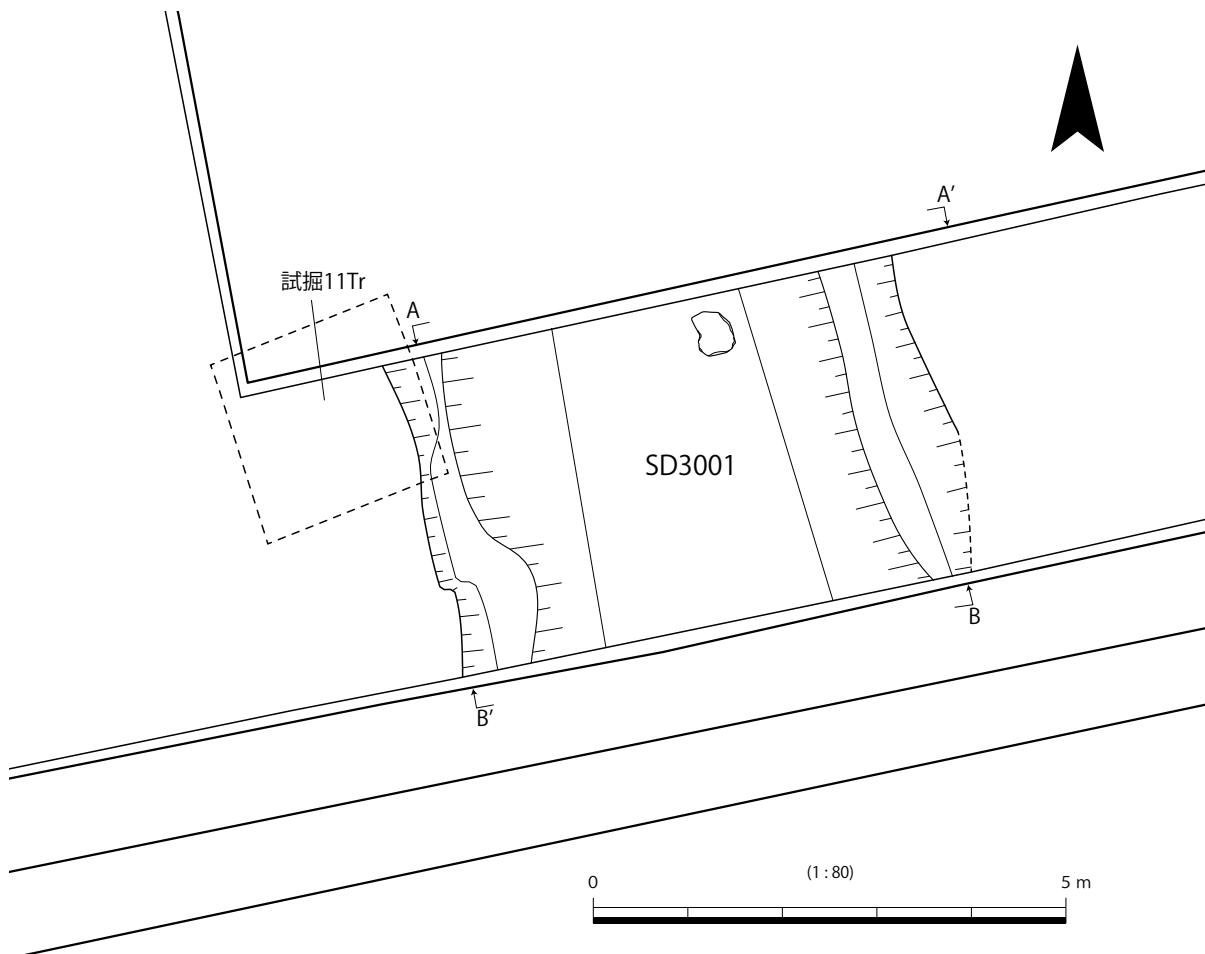
その後確認した最下層では、土師器(足高高台壺)は出土せず、古代の須恵器とともに弥生土器が出土した。最下層3層から須恵器の高台付壺が出土している。壺蓋Cの壺身であり、出雲国府第3型式である。8世紀第2四半期ごろ埋没したと推定される。

土坑 SK3002(第20図・図版4)

上面の直径約2.0m、深さ約0.5mで、楕円形の土坑である。埋土からは土師器破片が出土した。

井戸 SE3003(第18図・図版5)

上面の直径約2.0m、深さ約1.0mで、円形の井戸である。井戸枠などは確認していない。埋土からは弥生土器、須恵器、土師器、備前焼などの陶磁器類が出土した。



第6図 溝 SD3001 遺構平面図

溝 SD3004（第20図・図版5）

上面検出で幅1.3m、深さ約0.4mで、調査区の幅3.5m分を確認している。南北に走る溝である。埋土からは、土師器、陶磁器類が出土した。

土坑 SK3005（第20図・図版6）

上面検出では、直径1.1m、深さ約0.4m円形の土坑である。埋土からは土師器が出土した。足高高台付の环で国府第6型式から8型式に入るものである。底部に「有興」の刻書がある。

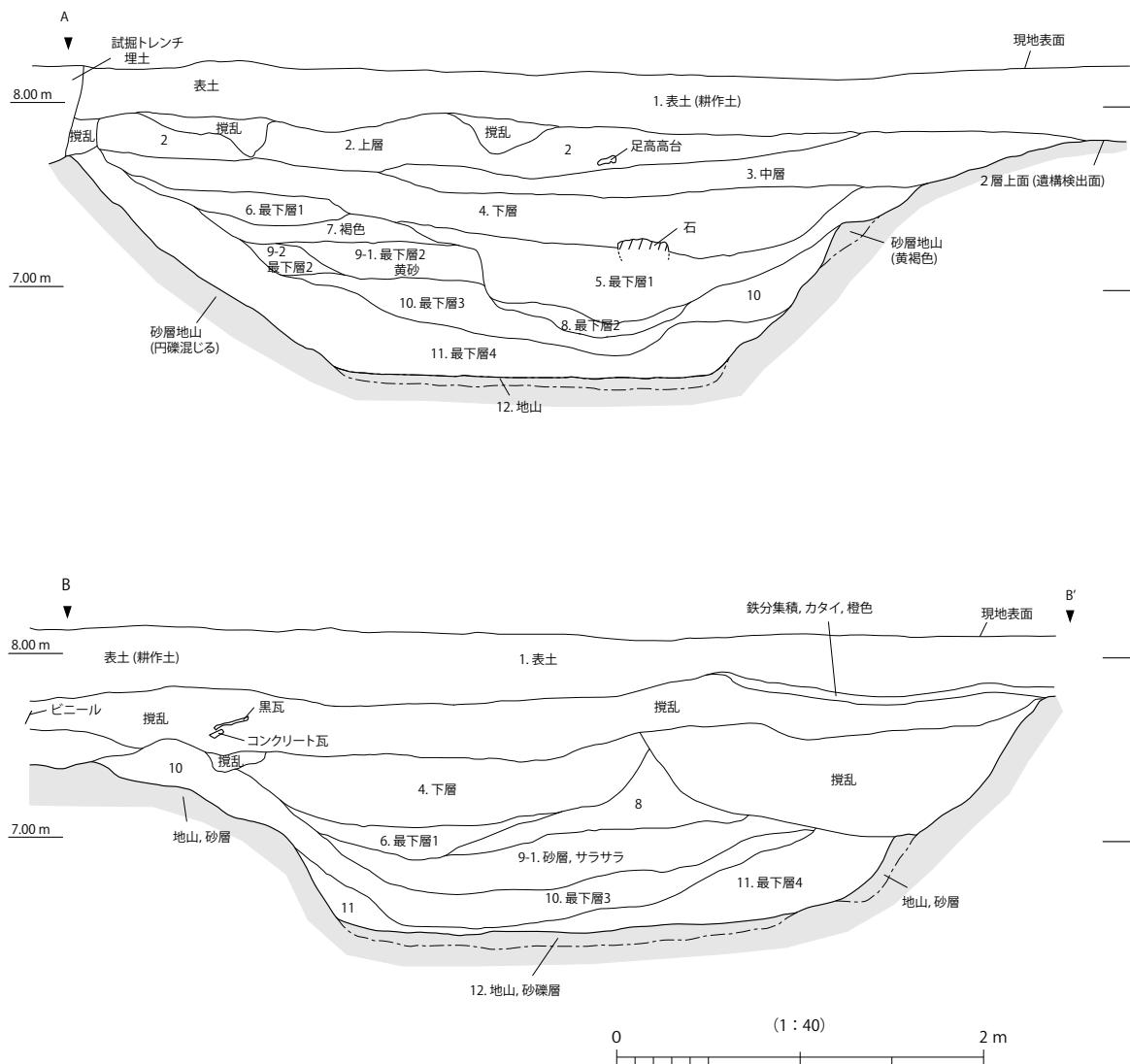
第3節 遺物の概要

1 遺構内出土遺物

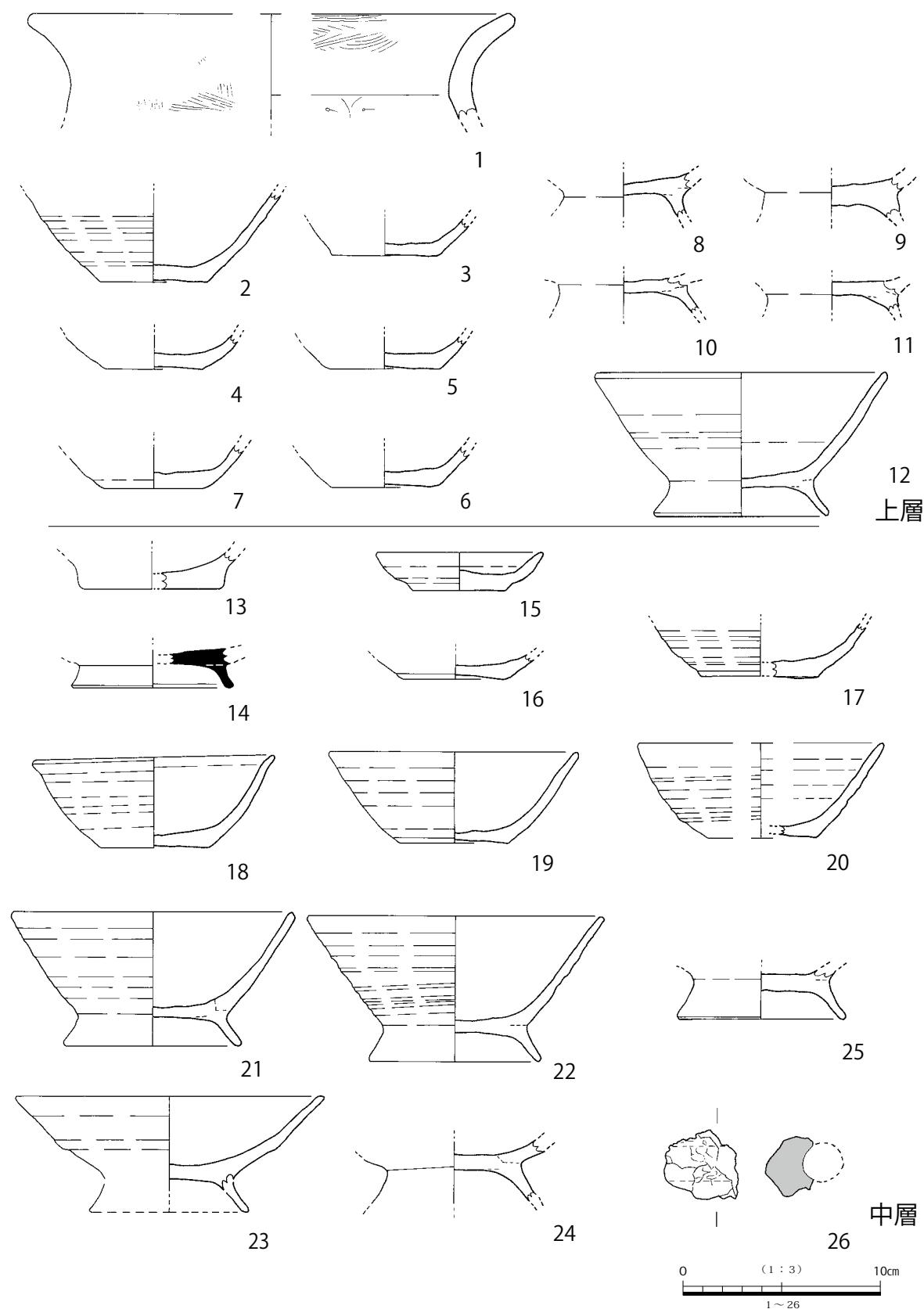
部位の特定や図化が可能だった遺物のうち、特徴的な遺物や遺存状態の良い遺物について、遺構ごとに詳述する。

溝 SD3001 出土遺物（第8図～第17図）

第8図は、遺構上層の出土遺物である。1は土師器甕の口縁部である。2から12は、土師器の环である。2から6は出雲国府第6型式（9世紀中葉から後葉）に該当し、7は出雲国府第7型式（10



第7図 溝SD3001 土層図



第8図 溝SD3001 上層・中層 遺物実測図

世紀前半)である。8から12は、足高高台の付く壺である。8から11は、全体の器形がわからず、国府第6から8型式に入るものである。12は出雲国府第7型式である。

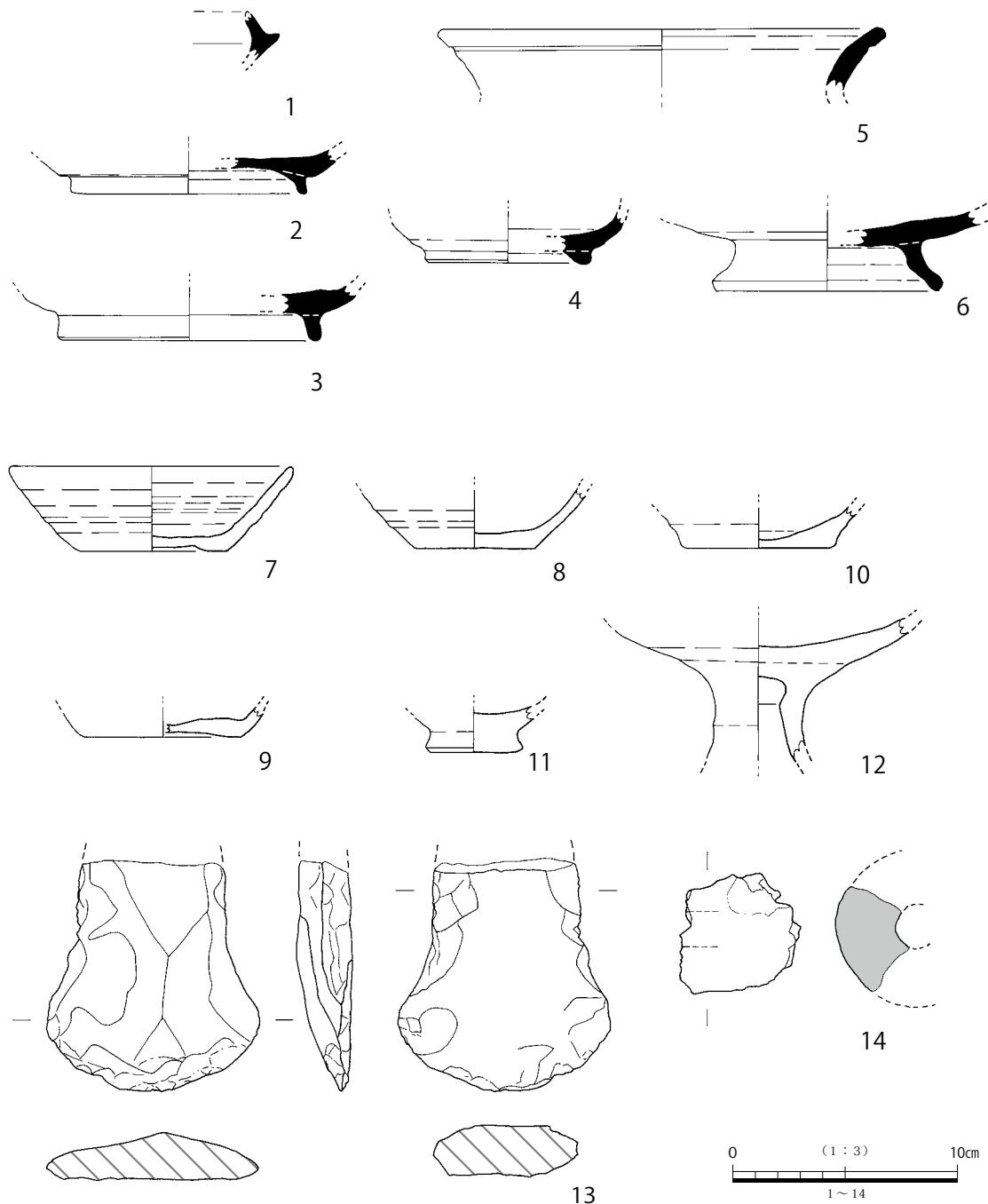
13～26は遺構中層の出土遺物である。13は弥生土器底部である。中期以降であろう。14は須恵器の高台付壺である。内面平滑であり、転用硯の可能性がある。15から25は、平安期を中心とする土師器である。15は皿で出雲国府第9型式である。16から19は無高台の壺で、16は出雲国府第9型式である。17は第8型式である。18、19は第9型式である。21から25は高台付の壺で21・22は第7型式、23は第8型式、24、25全体の器形がわからず、国府第6から8型式に入るものである。26は、ふいごの羽口で口径は約2cmである。

第9図は遺構下層の出土遺物である。1から6は須恵器である。1は蓋壺の身口縁部分であり大谷分類のA6型、出雲4期である。2から4は高台付の壺である。5は壺の口縁、6は壺の底部である。7から12は土師器、7から10は壺で7、8は出雲国府第6型式、9は第7型式、10は第9型式、11は柱状高台付壺で第9型式、12は高壺である。13は、石器の打製石鋤で安山岩製である。14は、ふいごの羽口で口径は約2cmである。

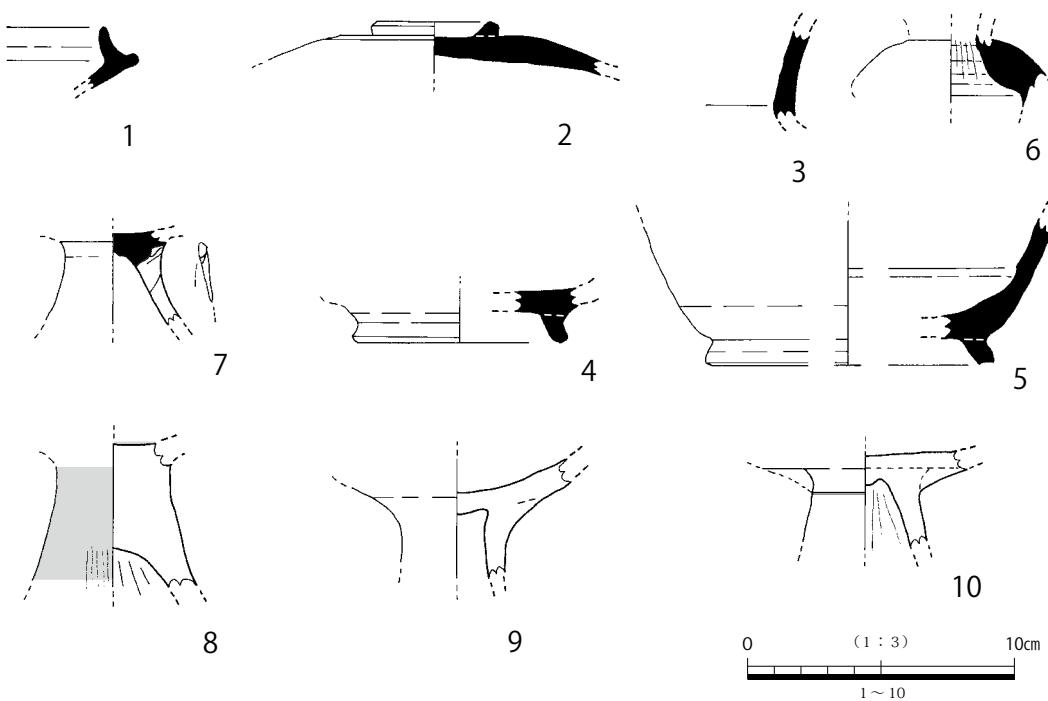
最下層は、4層に分層している。最下層は、上・中・下層よりも古く、出雲国府第3型式まで収まる。最下層1層は第10図である。1から7は須恵器である。1は蓋壺の身口縁部分であり大谷分類のA6型、出雲4期である。2は蓋壺Cの蓋で出雲国府第2型式である。3は壺の頸部、4は壺の底部である。内面が平滑で、転用硯の可能性がある。5は、壺底部である。6は頸の肩部で内面に絞り目が残る。7は高壺の脚部で2方向透かしが残る。8から10は土師器の高壺脚部である。8の外表面は赤色塗彩されている。

第11・12図は、最下層2層出土遺物である。第11図は、須恵器である。1から5は蓋壺の蓋で1は大谷分類A3型、出雲3期である。2は大谷分類A6型、出雲6期である。3は口縁端部にかえりの付く出雲国府第1型式、4は輪状つまみのつく国府第1型式から2型式であろう。5は扁平な宝珠つまみのつく国府第5型式である。6、7は蓋壺の身で大谷分類A6型、出雲6期である。8は口縁端部の屈曲する国府第2型式であろう。9、10は高台付の壺で国府第2型式である。11は高台付皿Aで国府第4型式である。12は壺の口縁部である。13は長頸壺の頸部である。14は壺の底部である。15、16は、平瓶の肩部で円形浮文を貼り付けている。大谷分類のC2型式で、出雲4期である。17は頸の胴部であり、18は頸の底部である。19は鉢の口縁部である。第12図の1から6は弥生土器である。1、2は口縁部が朝顔状に広がる広口壺の口縁部で弥生中期である。3は口縁部内・外面ヨコナデの複合口縁で弥生時代終末期から古墳前期である。4は把手付短頸壺の把手部分である。5、6は甕の底部である。7はカマドの底部分である。8、9は土師器の高壺で8は、内・外面ともに赤色塗彩されている。10は土師器甕の口縁部である。

第13図から第16図は、最下層3層出土遺物である。第13図は、須恵器である。1は高台付の壺である。2は高台付壺である。壺蓋Cの壺身であり、国府第3型式である。3は広口壺の頸部から肩部である。4は横瓶で頸部から底部である。第15図1は縄文後期前葉の深鉢である。底部外面に沈線文がめぐる。2から13は弥生土器である。2は中期の甕口縁部である。3は甕の口縁部である。



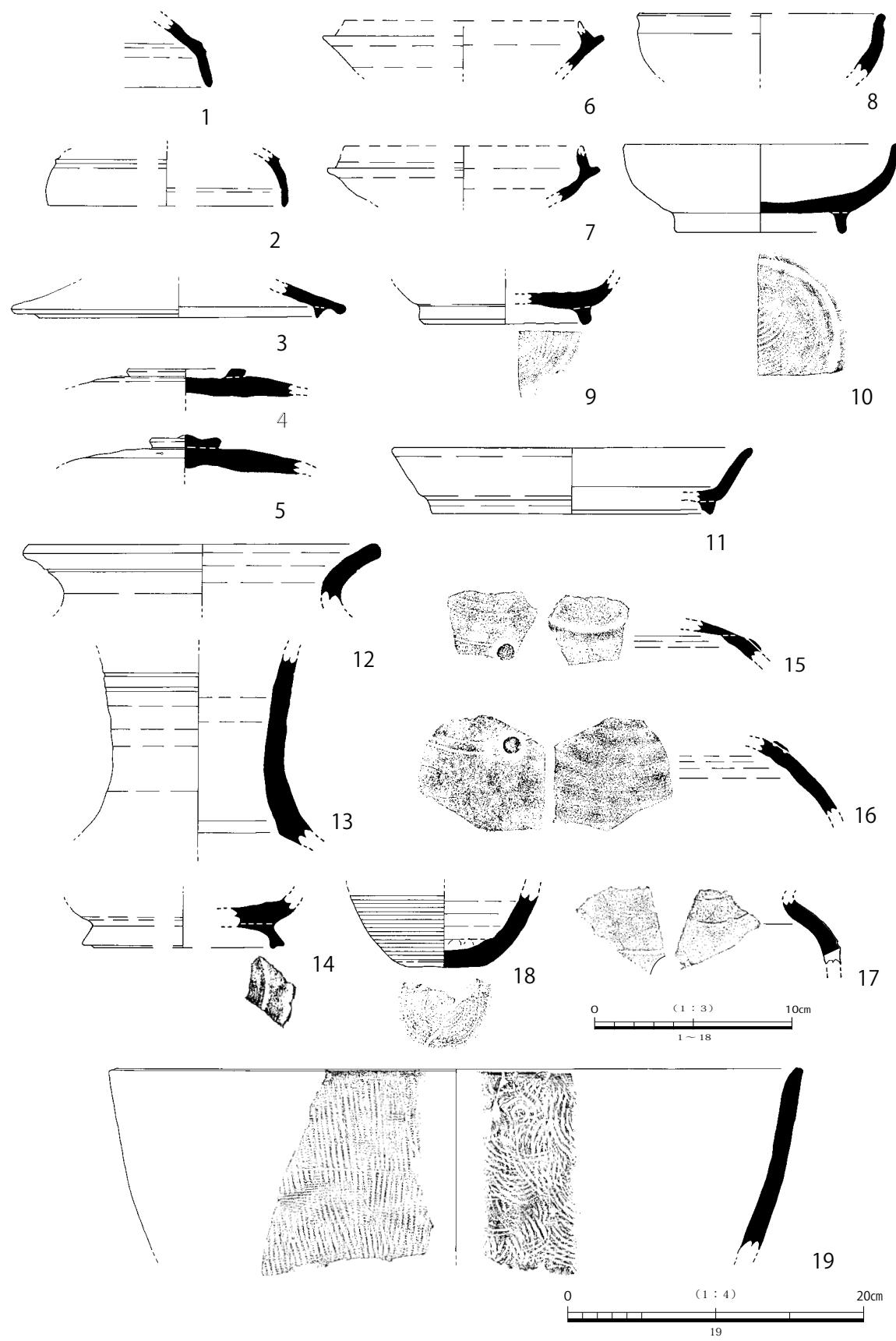
第9図 溝SD3001下層 遺物実測図



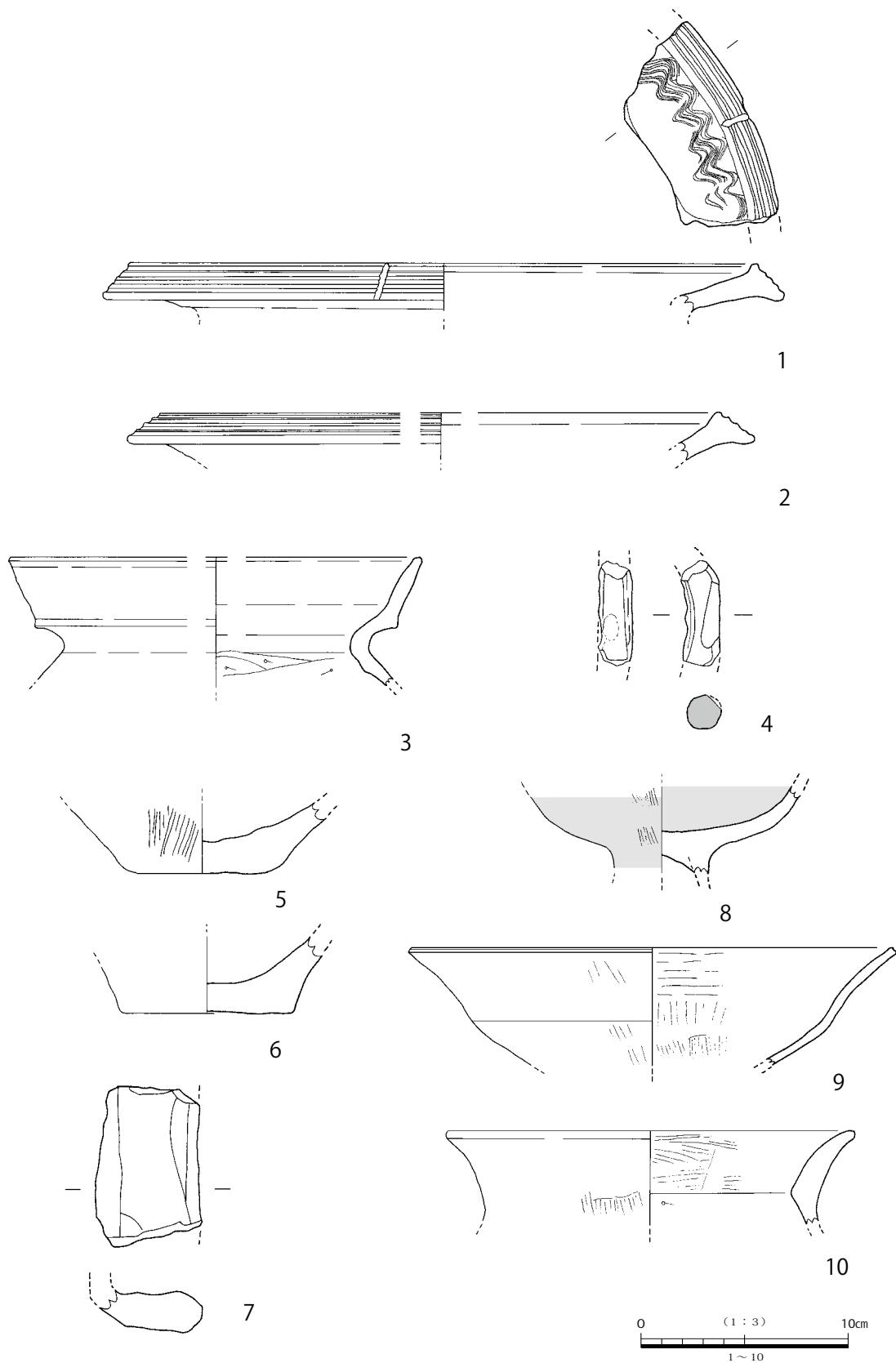
第10図 溝SD3001最下層1層 遺物実測図

口縁端部から1cm下に3mm程度穿孔している。4も甕の破片である。外面に2条の突帯文とその間に櫛描波状文がある。5は口縁部が朝顔状に大きく開く広口壺である。6、7は甕である。6は口縁部が「く」の字状に屈曲し、口縁端部は粘土を貼り付けて拡張している。口縁端部には凹線文が施してある。7は、屈曲部に突帯が巡り、指頭による圧痕文が施されている。8は高壺である。椀状の壺の口縁端部に粘土を貼り付けて拡張したものである。口縁端部上面には凹線文が巡る。9から13は後期の土器である。複合口縁をなす甕の口縁部片である。第16図も弥生土器である。1は甕胴部破片である。外面に羽状文や沈線文がみられる。2は土器の胴部破片を紡錘車に転用しようとした未成品か。中央に直径4mmほどの円形のくぼみがある。3から6は甕の底部である。中期以降であろう。6は底部に直径6mmの円孔がある。7は鼓形器台の器受部口縁部である。8は低脚壺で、内・外面ヘラミガキが残る。9は高壺の脚部である。内・外面赤色塗彩されている。10は瓶形土器の把手である。

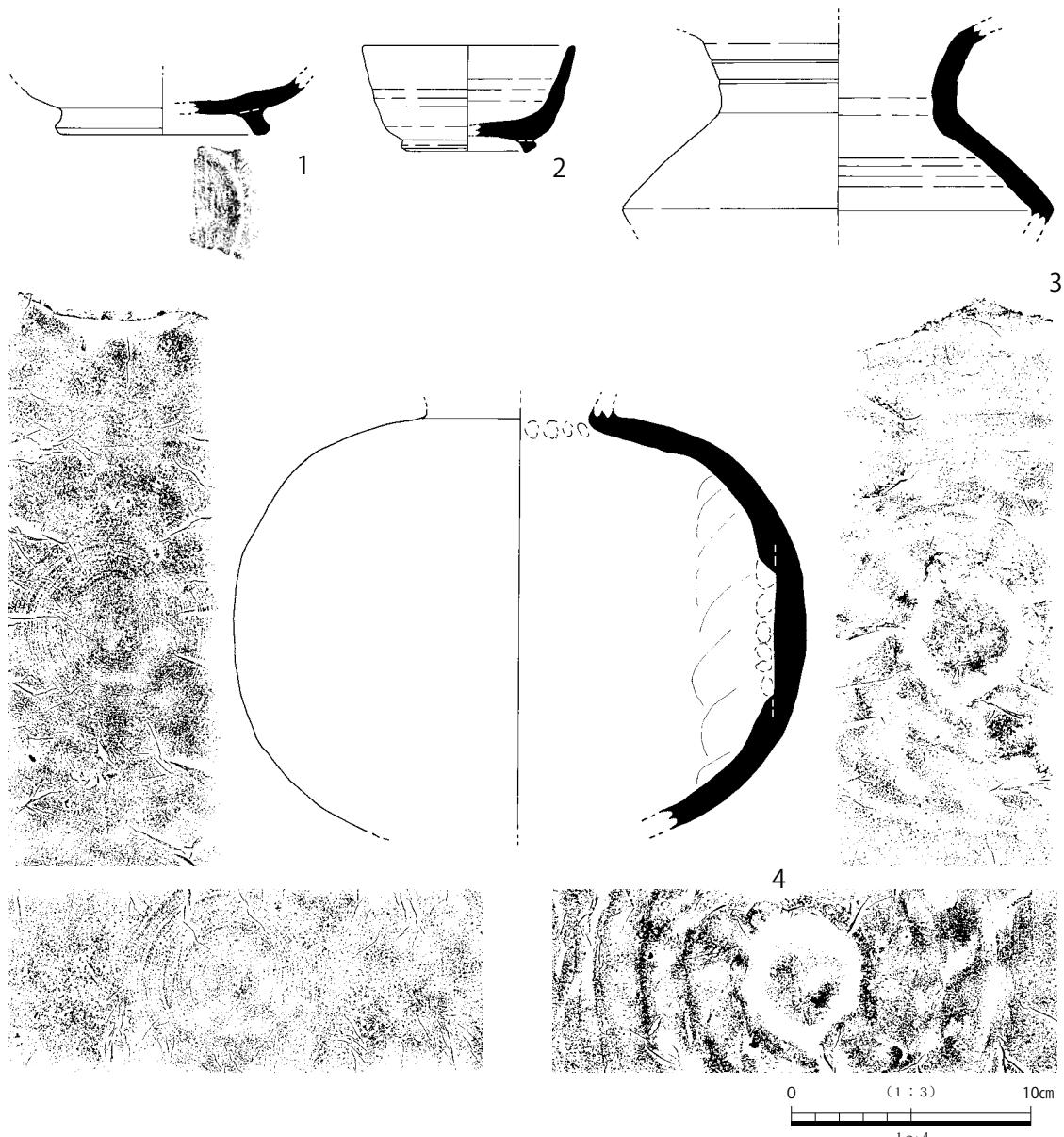
第17図は、最下層4層の土器及び遺構内南サブトレーナーの出土遺物である。1は須恵器の高壺の底部である。2から4は、後期の土器である。複合口縁をなす甕の口縁部片である。5は甕の底部である。中期以降であろう。6は高壺の脚部である。外面脚部に凹線文が4条めぐる。7は弥生土器で複合口縁をなす甕の口縁部片である。外面に櫛描波状文がめぐる。8、9は土師器の壺である。出雲国府第9型式である。10は土製支脚の脚部である。11から15は須恵器である。11は扁平な宝珠つまみのつく国府第5型式である。12は無高台壺Aで出雲国府第2型式である。13は高台付の壺である。14は長頸壺の頸部である。2条の沈線文がめぐる。15は甕の頸部である。16は有孔土錐である。17は石器の磨石で石材はディサイトである。18は椀形の鉄滓である。



第11図 溝SD3001 最下層2層 遺物実測図(1)



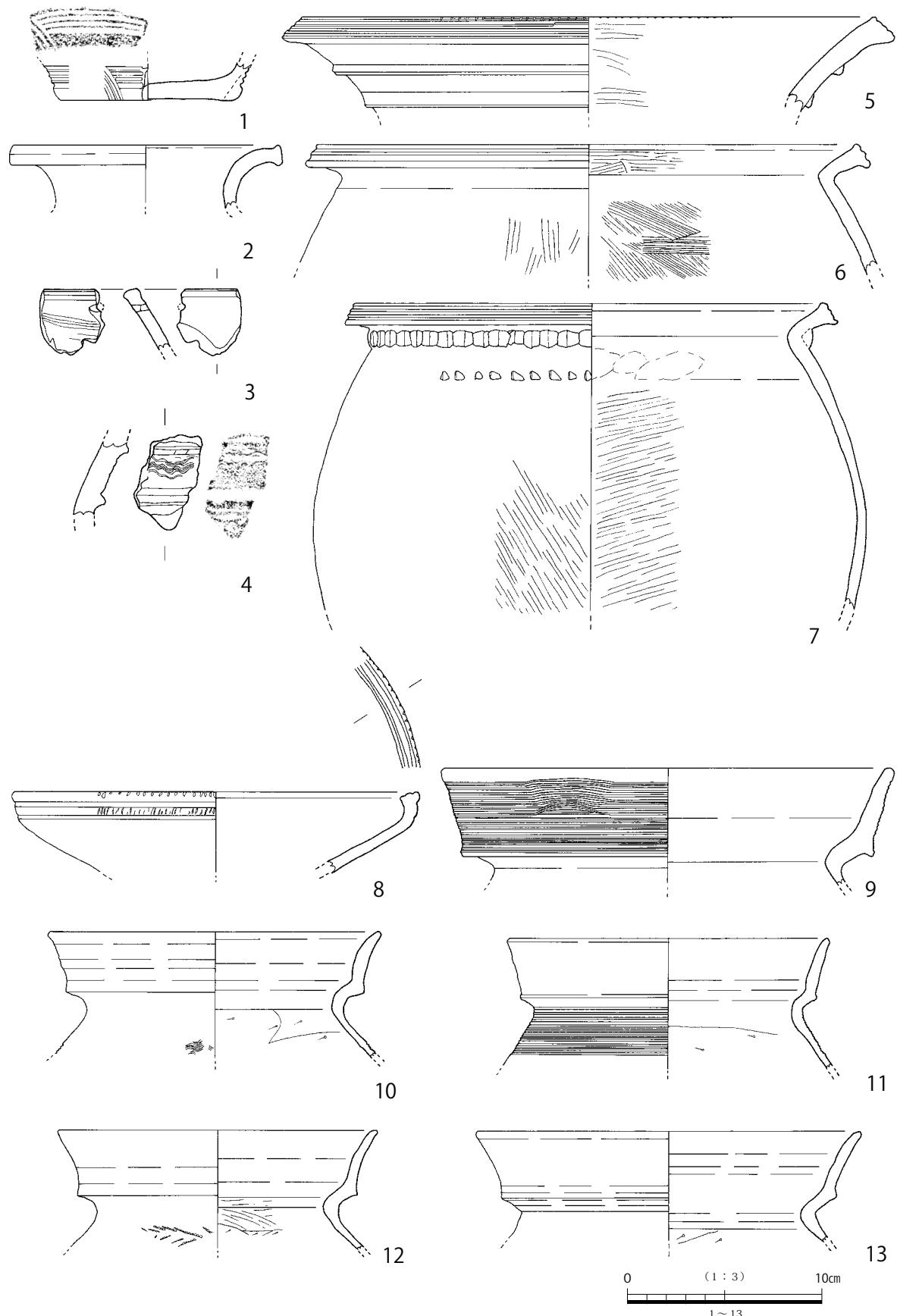
第12図 溝SD3001 最下層2層 遺物実測図(2)



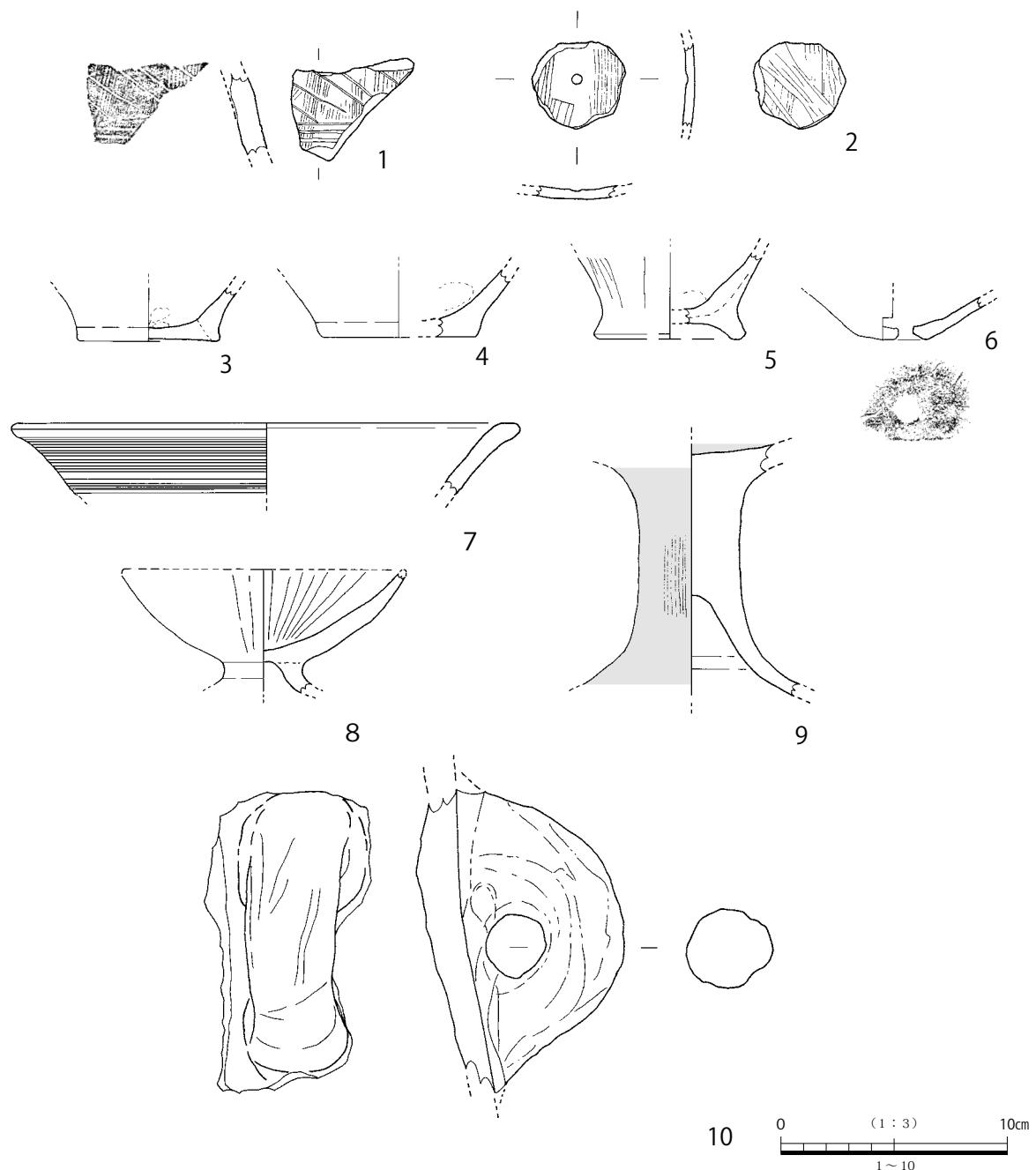
第13図 溝SD3001 最下層3層 遺物実測図(1)



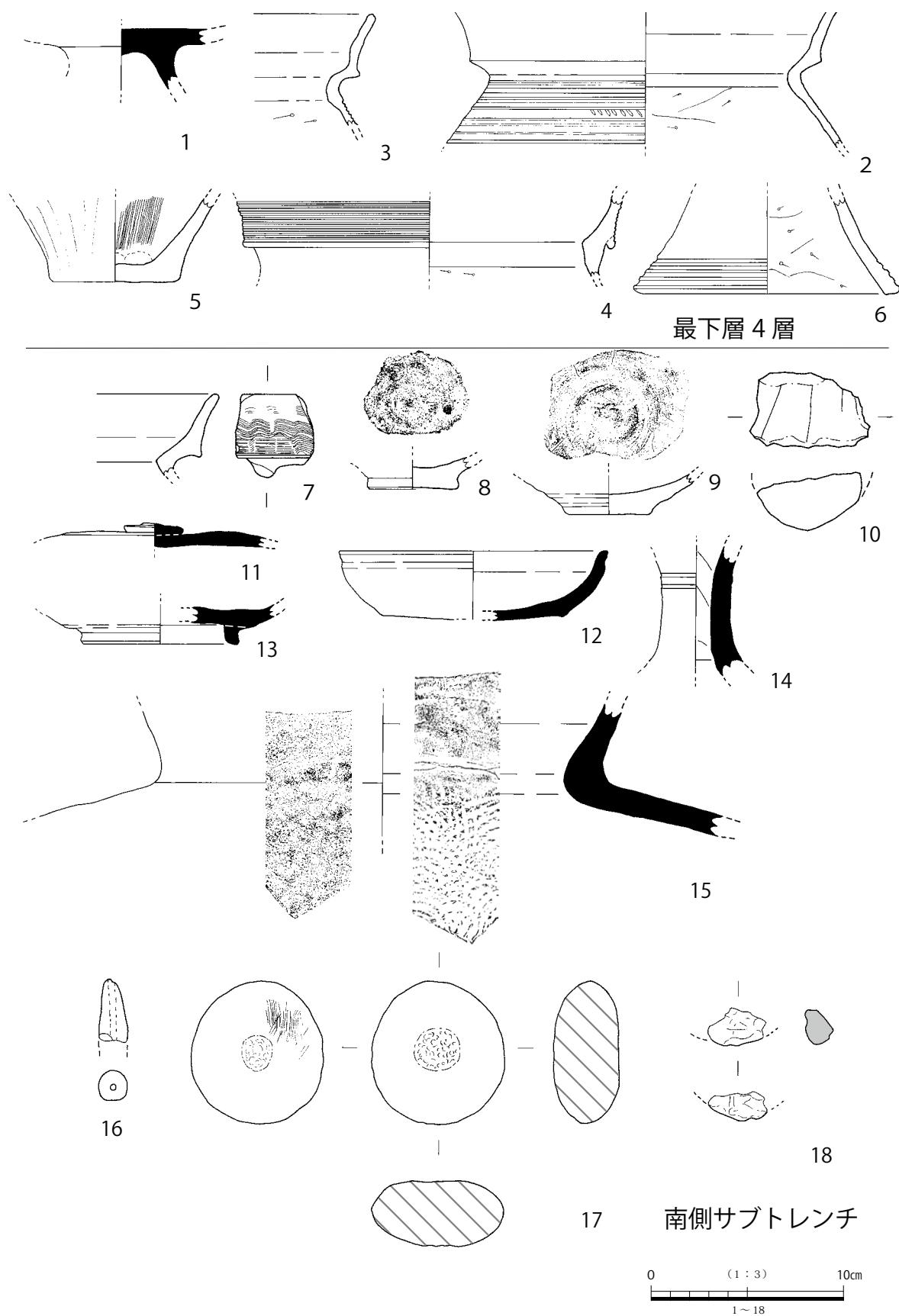
第14図 溝SD3001 の掘下げ状況（北から）



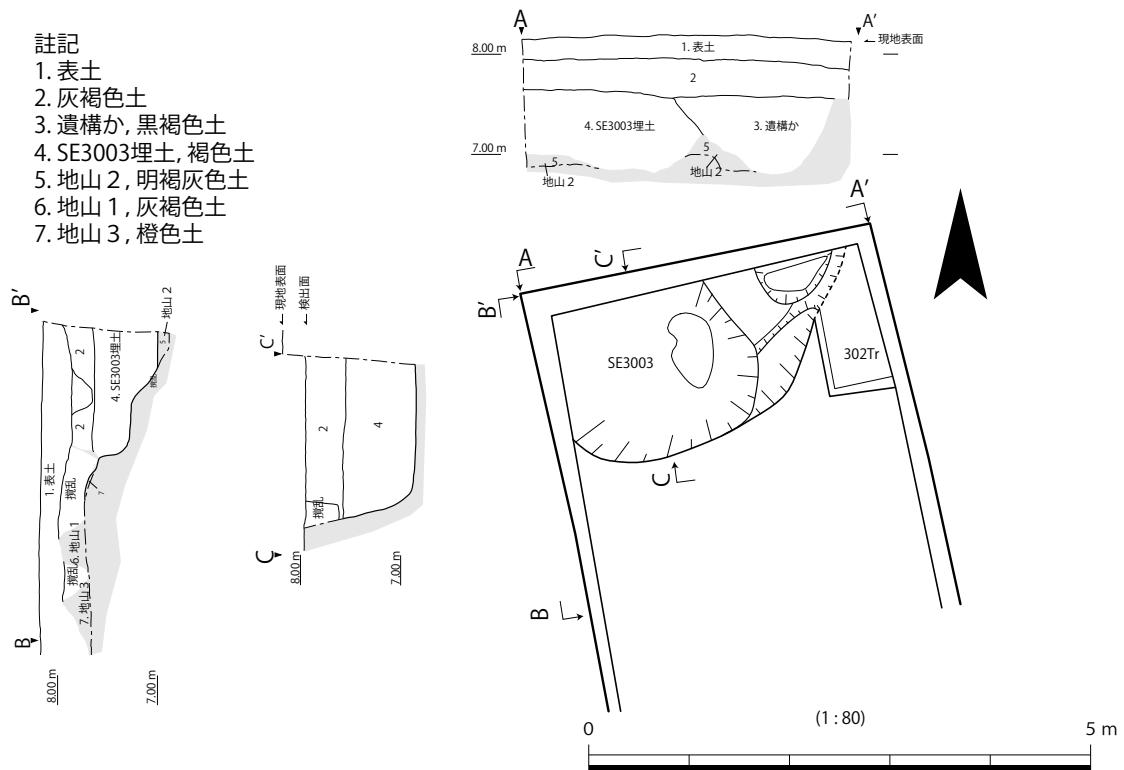
第15図 溝SD3001最下層3層 遺物実測図(2)



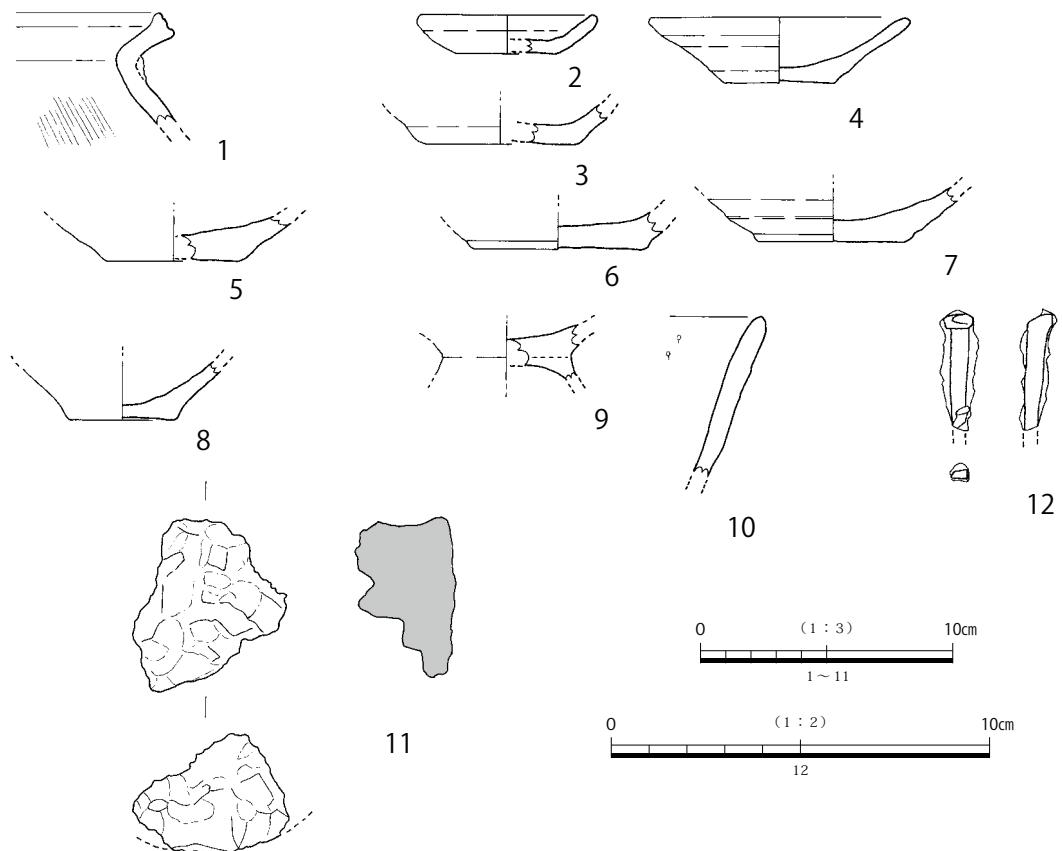
第16図 溝SD3001 最下層3層 遺物実測図(3)



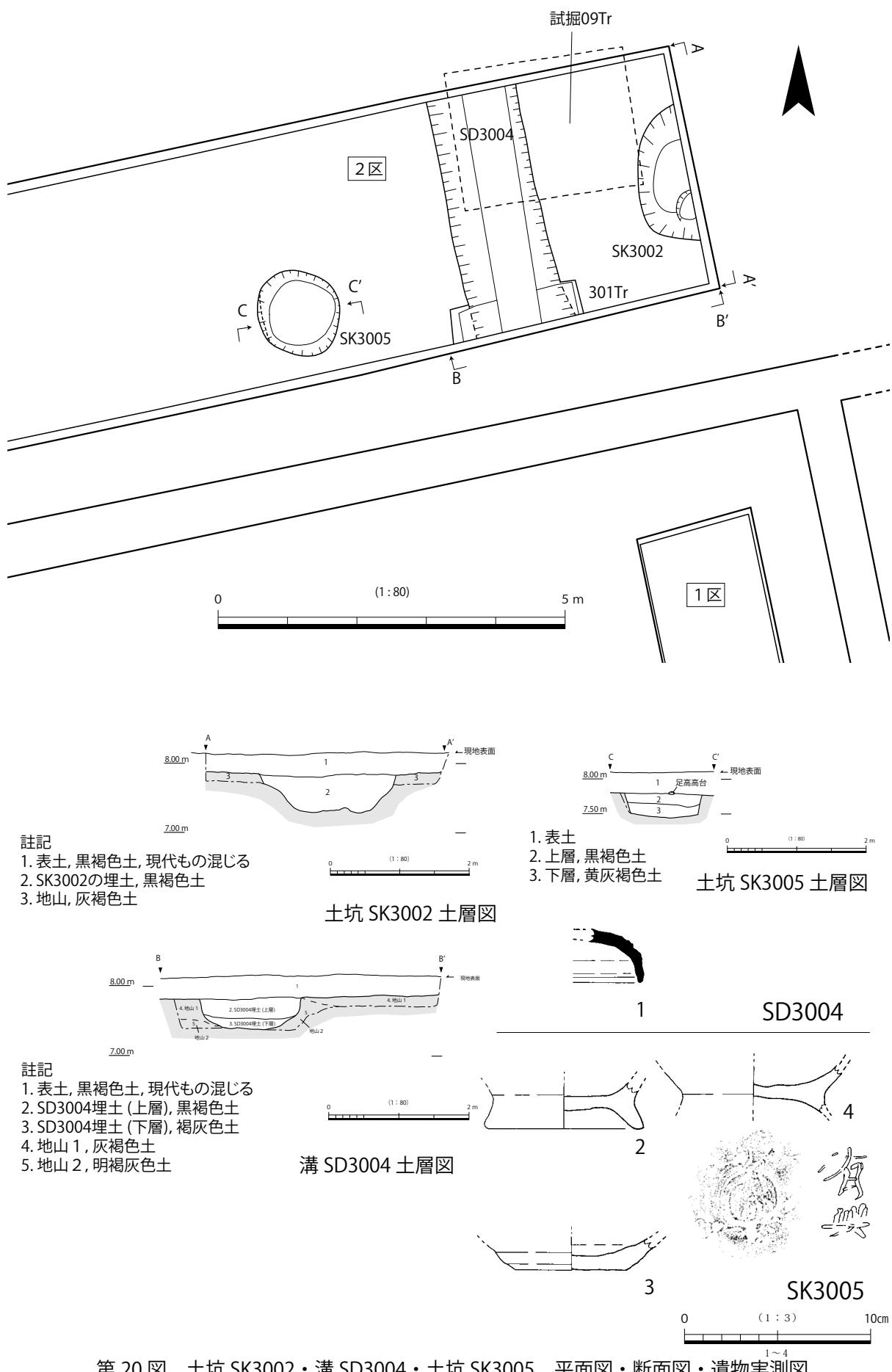
第17図 溝SD3001 最下層4層・南側サブトレンチ 遺物実測図



第18図 井戸SE3003 平面図・断面図



第19図 井戸SE3003 遺物実測図



土坑 SE003 出土遺物（第 19 図）

1 は弥生土器の甕である。口縁部が「く」の字状に屈曲し、口縁端部には凹線文が施してある。屈曲部に突帯が巡り、指頭による圧痕文が施されている。2 から 10 は土師器である。2 は皿、3 から 8 は壺で出雲国府 10 型式のものである。9 は足高高台付の壺で全体の器形がわからず、国府第 6 から 8 型式に入るものである。10 は鉢である。11 は、楕円形の鉄滓である。12 は鉄釘で角釘である。

溝 SD3004（第 20 図）

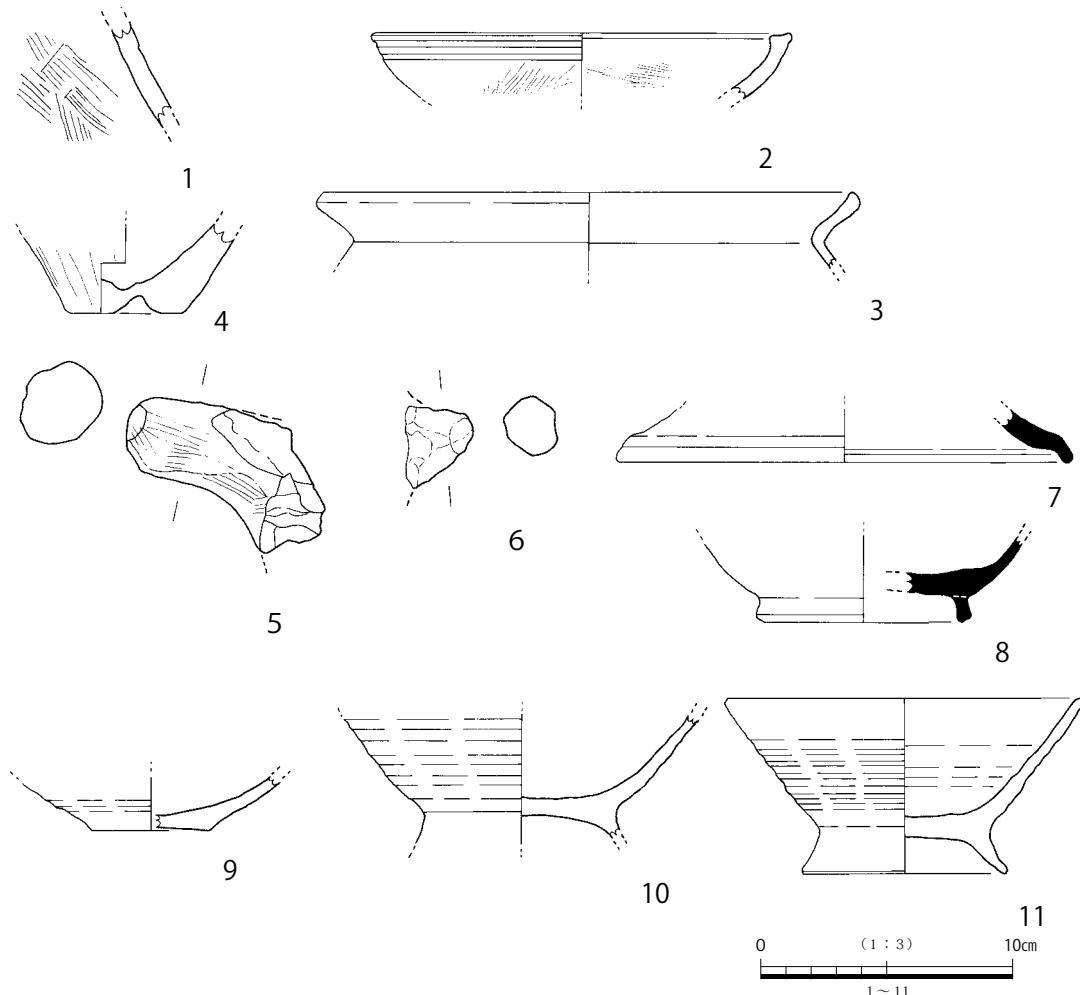
1 は須恵器で蓋壺の蓋である。大谷分類 A 5 型から A 7 型に該当する。出雲 4 期から 5 期である。

土坑 SD3005（第 20 図）

2 は弥生土器の底部である。3 は土師器の壺である。4 は、土師器、足高高台付の壺で全体の器形がわからず、国府第 6 から 8 型式に入るものである。底部にヘラ状工具による「有興」の刻書がある。

遺物包含層 2 層黒色土中（第 21 図）

1 から 4 は弥生土器である。1 は、甕胴部の破片で、櫛描の波状文や直線文、凹線文がある。2 は高壺であり、外面に凹線文がある。3 は、甕の口縁部で「く」の字状に屈曲する。4 は、底部である。5 は、土製支脚の突起部である。6 は、甕の把手である。7、8 は須恵器で、7 は蓋壺の蓋、8 は高台付の壺である。9 から 11 は土師器である。9 は壺で出雲国府第 9 型式である。10、11 は足高高台付の壺で 10 は、国府第 6 から 8 型式、11 は国府第 7 型式のものである。



第 21 図 2 層黒色土（遺物包含層） 遺物実測図

第4章 総括

第1節 溝 SD3001 について

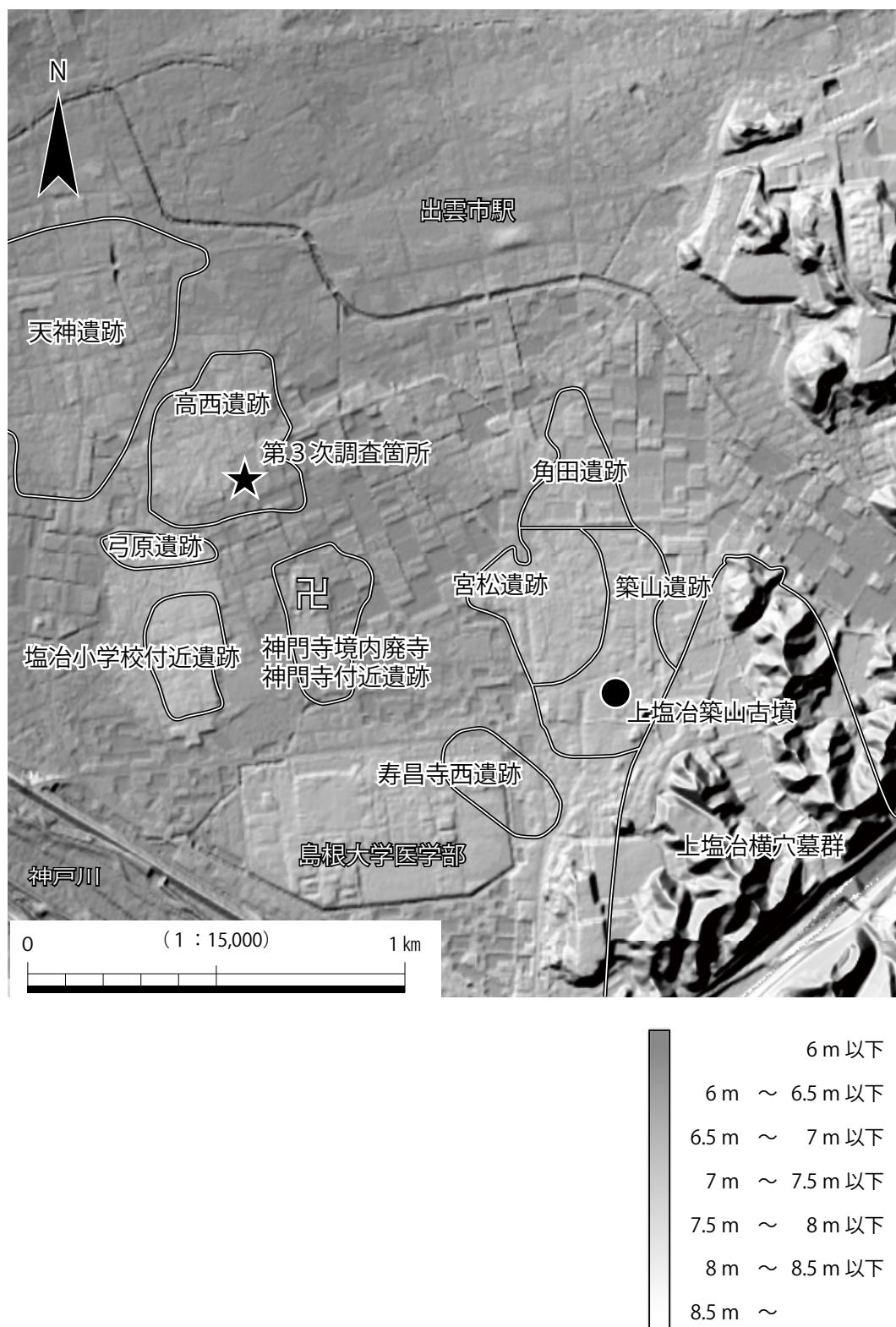
溝 SD3001 の出土遺物をみると、上・中・下層は、出雲国府 6 型式（9世紀中葉から後葉）から 8 型式（10世紀後半から 11世紀前半）の土師器（壺や足高高台壺）、須恵器の壺も含むことから、平安時代が一つの活動時期となっている。また、最下層は 4 層に分層しているが、最下層 4 層から須恵器のほか、弥生土器も含まれている。埋没時期については、須恵器の出土から 8世紀代となるが、弥生土器の中期以降の土器も多量に含まれている。破片も大きく、摩滅していないことから、周辺に存在した弥生時代の遺構や遺物包含層が削平された折に混入したのであろう。

試掘調査 06 トレンチにおいても溝の一部が確認されており、溝 SD3001 から北側に約 35 m は直線的に溝が掘られていると考えられる。周辺の標高と比較すると調査区から北西に向かって高くなる微高地に遺跡は立地しているが、その地形の縁辺に、直線的に人工的な溝が掘られている。これは集落などを区画する大溝であろうか（第3図）。

最下層に達する大溝構築時、8世紀代に高岸郷周辺で大規模な改変が行われたのであろう。

第2節 土坑 SK3005 出土の刻書土器について

調査区 2 区南西部にある土坑 SK3005 上層より出土した土師器（足高高台壺）1点の底部にヘラ状工具による刻書を確認した。字体を確認し、「有興」と判読した。本遺跡調査所在地が出雲市塩治町字有原であり、『出雲国風土記』（天平 5 年・733 年）の神門郡条にある阿利神社が記載されていることからも、地名の有原に関係するものと推定できる。また、正倉院文書の「出雲国大税賜給歴名帳」（天平 11 年・739 年）に神門郡日置郷の桑市里の有臣姓の人物が確認できる桑市里は、現在の塩治神社・上塩治築山古墳あたりと考えられ、本遺跡から南東約 1.0km の距離である。このことから「有興」については、氏名である可能性もある（註 1）。この土器の年代は、出雲国府 6 から 8 型式であり、歴年代は、国府 6 型式が 9 世紀中葉から後葉、8 型式が 10 世紀後半から 11 世紀前半の年代であり、平安時代にあてはまる。平安期の塩治地域を考察する上で貴重な発見となった。



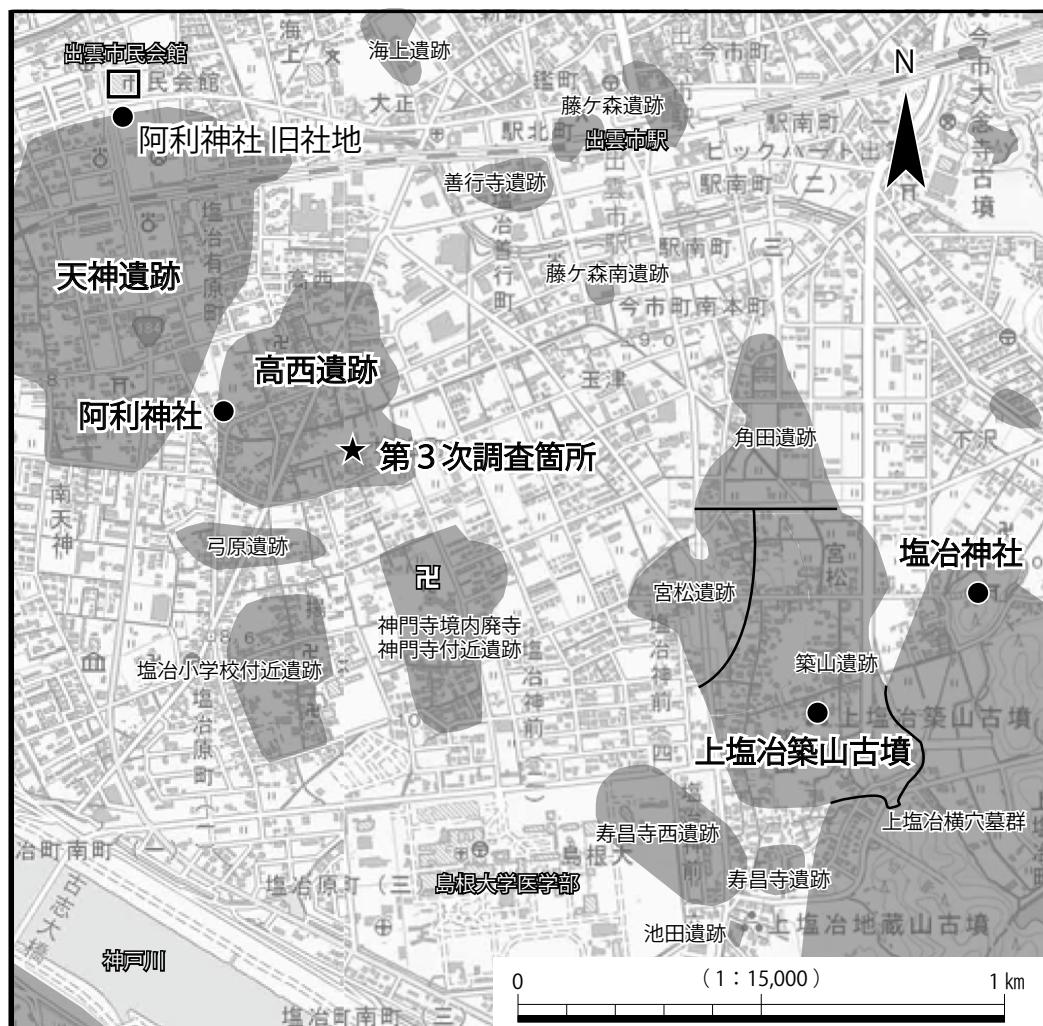
第22図 遺跡周辺の標高図

第3節 まとめ

今回の3次調査は、宅地造成地の市道拡幅部分のみの調査で、幅3.5m、面積300m²と狭い調査区であったが、溝SD3001より多量の土器が出土したほか、土坑SK3005の埋土からは「有興」のへラ描き文字の残る足高高台壺が出土するなど奈良・平安時代を中心とした遺構や遺物が出土した。さらに、溝SD3001の最下層からは、須恵器とともに弥生土器もまとめて出土している。隣接する天神遺跡からは弥生土器が多数の調査地点で出土しており、高西遺跡から天神遺跡に続く標高約8mの微高地に弥生時代の集落があった可能性がある。

高西遺跡の1～3次の発掘調査はいずれも遺跡の南東縁辺部の調査である。今後、北東部の標高8mの微高地周辺（第22図・第23図）で遺跡の中心部が解明されることを期待したい。

註1 高橋周（出雲弥生の森博物館専門研究員）による。



第23図 遺跡周辺図

遺物観察表

拂団番号	団版番号	出土位置	器種別	類型	型式	時期	法量(cm)			調整	備考
							口径	底径	器高		
8 1	2区 SD3001	上層	甕 (土師器)				(24.4)	—	(5.5)	外面 ハケメナデ 内面 ハケメナデ ケズリ	外面に煤?付着
8 2	2区 SD3001	上層	环身 (土師器)	無高台环	国府第6型式	9c中葉～後葉	—	5.5	(4.6)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ (螺旋状)	
8 3	2区 SD3001	2層黒色土 上層	环身 (土師器)		国府第6型式	9c中葉～後葉	—	5.4	(1.9)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ (の)の字状)	
8 4	2区 SD3001	2層黒色土 上層	环身 (土師器)		国府第7型式	10c前半	—	5.0	(1.7)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ (の)の字状)	
8 5	2区 SD3001	上層	环身 (土師器)		国府第6型式	9c中葉～後葉	—	5.6	(1.7)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ 底部ナデ (の)の字状)	
8 6	2区 SD3001	上層	环身 (土師器)		国府第6型式	9c中葉～後葉	—	5.4	(2.0)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ (螺旋状)	
8 7	2区 SD3001	上層	环身 (土師器)		国府第6型式	9c中葉～後葉	—	4.8	(2.2)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ 底部ナデ (の)の字状)	
8 8	2区 SD3001 SD3001	1面黒褐色土 2層黒色土 上層	足高台付环 (土師器)		国府第7型式	10c前半	(14.8)	(8.8)	7.3	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ 底部ナデ (の)の字状)	
8 9	2区 SD3001	上層	足高台付环 (土師器)		国府第6～第7型式	9c中葉～10c前半	—	—	(2.3)	外面 回転ナデ 底部回転ナデ (横円状) 内面 底部ナデ (螺旋状) 高台接合面 刻目?	
8 10	2区 SD3001	上層	足高台付环 (土師器)		国府第6～第8型式	9c中葉～11c前半	—	—	(1.8)	外面 回転ナデ 底部回転ナデ 内面 底部ナデ (の)の字状)	
8 11	2区 SD3001	上層	足高台付环 (土師器)		国府第6～第8型式	9c中葉～11c前半	—	—	(2.0)	外面 回転ナデ 底部静止糸切り? 後指ナデ 内面 回転ナデ 不整方向ナデ	
8 12	7 2区 SD3001	上層	足高台付环 (土師器)		国府第6～第8型式	9c中葉～11c前半	—	—	(1.5)	外面 回転ナデ 底部風化のため調整不明 内面 風化のため調整不明	
8 13	2区 SD3001	中層	壺蓋類 (甕生土器)			中期以降	—	(7.0)	(1.9)	外面 ナデ 内面 ナデ	
8 14	2区 SD3001	中層	高台付环身 (須恵器)				—	(8.2)	(2.0)	外面 回転ナデ 内面 導部平滑	転用窓?
8 15	7 2区 SD3001	中層	皿 (土師器)		国府第9型式	11c後半 ～12c前半	(8.4)	4.6	1.9	外面 回転ナデ 底部回転へら切り 内面 回転ナデ 底部ナデ (の)の字状)	
8 16	2区 SD3001	中層	环身 (土師器)		国府第9型式	11c後半 ～12c前半	—	(5.4)	(1.2)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ	
8 17	2区 SD3001	中層	环身 (土師器)		国府第8型式	10c後半 ～11c前半	—	(6.0)	(2.8)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ	
8 18	7 2区 SD3001	中層	环身 (土師器)		国府第8型式	10c後半 ～11c前半	12.2	5.4	4.7	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ	重ね焼きの痕跡?
8 19	7 2区 SD3001	2層黒色土 中層	环身 (土師器)		国府第9型式	10c後半 ～11c前半	(12.6)	(5.6)	4.6	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ	
8 20	7 2区 SD3001 SD3001	2層黒色土 — 中層	环身 (土師器)		国府第9型式	10c後半 ～11c前半	(12.5)	5.4	4.8	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ	
8 21	7 2区 SD3001 SD3001 SD3001	中層 下層	足高台付环 (土師器)		国府第7型式	10c前半	(14.2)	(8.8)	6.8	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ 底部指ナデ (螺旋状?)	
8 22	7 2区 SD3001 SD3001 SK3005	2層黒色土 中層 上層	足高台付环 (土師器)		国府第6型式	9c中葉～後葉	(15.0)	8.6	7.5	外面 回転ナデ 底部不整方向ナデ 内面 回転ナデ	
8 23	7 2区 SD3001 SD3001 SD3001	中層 下層	足高台付环 (土師器)		国府第8型式	10c後半 ～11c前半	(15.6)	(8.0)	(5.9)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	脚部を欠く
8 24	2区 SD3001	中層	足高台付环 (土師器)		国府第6～第8型式	9c中葉～11c前半	—	(8.4)	(2.4)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り? 内面 回転ナデ 不整方向ナデ	
8 25	2区 SD3001	中層	足高台付环 (土師器)		国府第6～第8型式	9c中葉～11c前半	—	—	(3.2)	外面 回転ナデ 底部不整方向ナデと指ナデ 内面 回転ナデ 底部ナデ (の)の字状) 後回転ナデ	
8 26	2区 SD3001	中層	鶴羽口 (土製品)				長 (3.8)	幅 (3.5)	孔径 (2.0)		送風管部残存
9 1	2区 SD3001	下層	环身 (須恵器)				—	—	(2.2)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	たちあがりを除く外面に灰被り、重ね焼きの痕跡、たちあがり端部を欠く
9 2	7 2区 SD3001	下層	高台付环身 (須恵器)				—	(10.6)	(1.9)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ 不整方向ナデ	外面に灰被り、重ね焼きの痕跡?
9 3	2区 SD3001	下層	高台付环身 (須恵器)				—	(11.5)	(2.4)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ 底部平滑	転用窓?
9 4	2区 SD3001	下層	高台付环身 (須恵器)				—	(7.2)	(2.3)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	
9 5	2区 SD3001	下層	壺 (須恵器)				(19.8)	—	(2.7)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	上面に灰被り
9 6	7 2区 SD3001	下層	壺 (須恵器)				—	(10.0)	(3.6)	外面 回転ナデ 底部ナデ 内面 回転ナデ 不整方向ナデ	
9 7	7 2区 SD3001	下層	环身 (土師器)		国府第6型式	9c中葉～後葉	(12.6)	(6.4)	3.8	外面 回転ナデ 底部手捏ね 内面 回転ナデ	底部外面に板置きの痕跡
9 8	2区 SD3001	下層	环身 (土師器)		国府第6型式	9c中葉～後葉	—	5.2	(2.7)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ (の)の字状)	
9 9	2区 SD3001	下層	环身 (土師器)		国府第7型式	10c前半	—	(7.0)	(1.3)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ 底部一方方向ナデ	
9 10	2区 SD3001	下層	环身 (土師器)		国府第9型式	11c後半 ～12c前半	—	(6.4)	(1.9)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ ナデ (横円状 (の)の字状))	
9 11	2区 SD3001	下層	柱状高台付环 (土師器)		国府第9型式	11c後半 ～12c前半	—	(3.8)	(2.1)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ	
9 12	2区 SD3001	下層	高坏 (土師器)				—	—	(6.4)	外面 回転ナデ ハケメ? 内面 不整方向ナデ 脚部ナデ	
9 13	7 2区 SD3001	下層	石獅				(10.4)	9.6	2.5		安山岩, 289.7g
9 14	7 2区 SD3001	下層	鶴羽口 (土製品)				長 (5.5)	幅 (5.4)	孔径 (2.0)		送風管部残存
10 1	2区 SD3001	最下層 -1	环身 (須恵器)	大谷分類 A 4型?	大谷編年4期 (TK 209)	580～619	—	—	(2.3)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	重ね焼きの痕跡
10 2	8 2区 SD3001	最下層 -1	环身 (須恵器)	蓋環 C	国府第2型?	7c末葉 ～8c第1四半期	—	—	(2.0)	外面 回転ヘラケズリ ナデ 天井部回転糸切り 内面 回転ナデ 不整方向ナデ	輪状つまみ
10 3	8 2区 SD3001	最下層 -1	壺 (須恵器)				—	—	(3.3)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	
10 4	8 2区 SD3001	最下層 -1	腿 (須恵器)				—	—	(2.7)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ シボリ目	
10 5	8 2区 SD3001	最下層 -1	高坏 (須恵器)	A 5型	大谷編年5期 (TK 217)	620 ～639 (7c前半)	—	—	(3.5)	外面 回転ナデ 内面 不整方向ナデ 脚部回転ナデ	三角形の二方向スカシ (工具痕あり)
10 6	8 2区 SD3001	最下層 -1	壺 (須恵器)				—	(7.8)	(2.1)	外面 回転ナデ 底部ナデ 内面 回転ナデ 底部平滑	転用窓?
10 7	2区 SD3001 SD3001	最下層 -1	壺 (須恵器)				—	(10.8)	(5.5)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	
10 8	8 2区 SD3001	最下層 -1	高坏 (土師器)				—	—	(5.5)	外面 ナデ ハケメ? 内面 环部赤色塗彩のため調整不明 脚部指突痕(深い部分は棒状工具使用?)	外面と环部内面に赤色塗彩
10 9	2区 SD3001	最下層 -1	高坏 (土師器)				—	—	(4.6)	外面 ナデ?	环部風化のため調整不明 脚部ナデ?

博団番号	図版番号	地区	出土位置		器種別	類型	型式	時期	法量(cm)			調整	備考		
			遺構	層位					口径	底径	器高				
10	10	2区	SD3001	最下層-1	高环 (土師器)				—	—	(3.8)	外面部回転ナデ? 内面部回転ナデ? 脚部ナデ	脚部外面部に沈線(粘土貼り付け時の印?)		
11	1	8	2区	SD3001	最下層-2	环蓋 (須恵器)		大谷編年6期?		—	—	(3.5)	外面部回転ナデ 内面部回転ナデ 不整方向ナデ		
11	2	2区	SD3001	最下層-2	环蓋 (須恵器)				(12.2)	—	(2.7)	外面部回転ナデ 内面部回転ナデ			
11	3	2区	SD3001	最下層-2	环蓋 (須恵器)	国府第1型式	7c後葉	(16.6)	—	(1.7)	外面部灰被りのため調整不明 内面部回転ナデ	外面部灰被り			
11	4	2区	SD3001	最下層-2	环蓋 (須恵器)				—	—	(1.4)	外面部回転ヘラケズリ 回転ナデ 内面部回転ナデ 天井部平滑 つまみ部不整方向ナデ	輪状つまみ、転用現?		
11	5	2区	SD3001	最下層-2	环蓋 (須恵器)	蓋環C	国府第4型式	8c第3 ~第4四半期	—	—	(1.9)	外面部回転ヘラケズリ 回転ナデ 内面部不整方向ナデ	宝珠つまみ		
11	6	2区	SD3001	最下層-2	环身 (須恵器)				(14.2)	—	(2.6)	外面部回転ナデ 内面部回転ナデ	重ね焼きの痕跡、たちあがり端部を欠く		
11	7	2区	SD3001	最下層-2	环身 (須恵器)				(13.9)	—	(2.8)	外面部回転ナデ 内面部回転ナデ	口縁端部に灰被り、重ね焼きの痕跡、たちあがり端部を欠く		
11	8	2区	SD3001	最下層-2	环身 (須恵器)	無高台环 A?	国府第2型式	7c末葉 ~8c第1四半期	(12.4)	—	(3.2)	外面部回転ナデ 内面部回転ナデ	重ね焼きの痕跡		
11	9	2区	SD3001	最下層-2	高台付环身 (須恵器)				—	(8.4)	(2.3)	外面部回転ナデ 底部回転糸切り 内面部回転ナデ 不整方向ナデ			
11	10	2区	SD3001	最下層-2	高台付环身 (須恵器)	蓋環C	国府第2型式	7c末葉 ~8c第1四半期	(13.9)	(8.6)	4.5	外面部回転ナデ 底部回転糸切り 内面部回転ナデ 不整方向ナデ			
11	11	2区	SD3001	最下層-2	高台付皿 (須恵器)	高台付皿	国府第4型式?	8c第3 ~第4四半期	(18.4)	(14.4)	3.4	外面部回転ナデ 内面部回転ナデ			
11	12	2区	SD3001	最下層-2	壺 (須恵器)				(17.8)	—	(3.2)	外面部灰被りのため調整不明 内面部回転ナデ	沈線、外面部に厚く灰被り、内面部に薄く灰被り		
11	13	2区	SD3001	最下層-2	壺 (須恵器)	長颈壺 (須恵器)			—	—	(9.9)	外面部回転ナデ 内面部回転ナデ	沈線		
11	14	2区	SD3001	最下層-2	壺 (須恵器)				—	(10.4)	(2.7)	外面部回転ナデ 内面部回転ナデ 不整方向ナデ	底部内面に灰被り?		
11	15	8	2区	SD3001	最下層-2	平瓶 (須恵器)	大谷分類 C2型	大谷編年5期 ~6期A (TK 217)	620 ~639(7c前半)	—	—	(2.0)	外面部灰被りのため調整不明 内面部回転ナデ 不整方向ナデ	沈線、円形浮文、外面部に灰被り 実測図No.3028と同一個体?	
11	16	8	2区	SD3001	最下層-2	平瓶 (須恵器)	大谷分類 C2型	大谷編年5期 ~6期A (TK 217)	620 ~639(7c前半)	—	—	(3.9)	外面部灰被りのため調整不明 内面部回転ナデ	沈線、円形浮文、外面部に灰被り 実測図No.3027と同一個体?	
11	17	2区	SD3001	最下層-2	胫 (須恵器)	大谷分類 B1型?	大谷編年3期 (TK 43)	550~579	—	—	(3.4)	外面部カキメ 回転ナデ 内面部回転ナデ	沈線、刻目、体部に穿孔 実測図No.3029と同一個体?		
11	18	8	2区	SD3001	最下層-2	胫 (須恵器)	大谷分類 B1型?	大谷編年3期 (TK 43)	550~579	—	(4.0)	(3.8)	外面部カキメ 底部回転ヘラ切り後回転ナデ 内面部回転ナデ 底部回転ナデ後指オサエ	底部内面に灰被り 実測図No.3030と同一個体?	
11	19	8	2区	SD3001	最下層-2	鉢 (須恵器)			(46.4)	—	(12.6)	外面部回転ナデ 平行タキ 内面部回転ナデ 当て具痕(同心円文)			
12	1	9	2区	SD3001	最下層-2	広口壺 (弥生土器)	IV-1様式		(30.7)	—	(2.3)	外面部ナデ 内面部ナデ	凹線文、櫛描波状文、棒状浮文		
12	2	9	2区	SD3001	最下層-2	広口壺 (弥生土器)	IV-1様式		(27.3)	—	(2.3)	外面部ナデ 内面部ナデ	凹線文		
12	3	9	2区	SD3001	最下層-2	壺 (弥生土器)	V-3様式		(20.0)	—	(6.2)	外面部ナデ 内面部ナデ ケズリ	外面に焼付着		
12	4	2区	SD3001	最下層-2	把手付短頸壺 (弥生土器)				長さ (5.1)	—	断面 最大径 1.6	ナデ	把手		
12	5	9	2区	SD3001	最下層-2	壺 (弥生土器)				—	6.2	(3.4)	外面部ハケメ 底部指オサエ 内面部ナデ		
12	6	9	2区	SD3001	最下層-2	壺 (土製品)				—	8.0	(3.7)	外面部ナデ 内面部ナデ		
12	7	2区	SD3001	最下層-2	壺 (土製品)				—	—	(7.8)	手捏ね 指ナデ	底部		
12	8	9	2区	SD3001	最下層-2	高环 (土師器)			—	—	(4.3)	外面部ハケメ 内面部赤色塗彩のため調整不明 脚部強い指ナデ	外面部と杯部内面に赤色塗彩		
12	9	2区	SD3001	最下層-2	高环 (土師器)				(23.5)	—	(5.7)	外面部ナデ 斜め方向ミガキ 内面部ハケメ 横方向ミガキ 縦方向ミガキ	口縁端部に浅い沈線		
12	10	2区	SD3001	最下層-2	甕 (土師器)				(19.7)	—	(4.6)	外面部回転ナデ 底部静止糸切り又はへら切り 内面部不整方向ナデ			
13	1	9	2区	SD3001	最下層-3	高台付环身 (須恵器)			—	(8.4)	(2.4)	外面部回転ナデ 底部静止糸切り又はへら切り 内面部不整方向ナデ			
13	2	9	2区	SD3001	最下層-3	高台付环身 (須恵器)	蓋環C	国府第3型式	8c第2四半期	(8.8)	(5.6)	4.4	外面部回転ナデ 内面部回転ナデ		
13	3	9	2区	SD3001	最下層-3	壺 (須恵器)			—	—	(8.5)	外面部回転ナデ 内面部回転ナデ	沈線、外面部に灰被り		
13	4	9	2区	SD3001	最下層-3	横瓶 (須恵器)			—	体部 最大幅 (24.0)	(17.8)	外面部回転ナデ 内面部回転ナデ ナデ上げ 指オサエ	外面に灰被り、頭部外面部に自然釉、小さめの土器を 体部上に置いて焼成?		
15	1	9	2区	SD3001	最下層-3	深鉢 (縄文土器)	III-2様式		—	(9.0)	(1.9)	外面部ナデ 内面部ナデ	縄文、沈線文		
15	2	9	2区	SD3001	最下層-3	壺 (須生土器)			(13.8)	—	(3.3)	外面部ナデ 内面部ナデ			
15	3	9	2区	SD3001	最下層-3	壺 (須生土器)			—	—	(3.1)	外面部ナデ 内面部ナデ ハケメ	口縁部に両面穿孔		
15	4	9	2区	SD3001	最下層-3	壺 (須生土器)			—	—	(3.8)	外面部ナデ 内面部ナデ	突帯文、櫛描波状文		
15	5	9	2区	SD3001	最下層-3	広口壺 (須生土器)	IV-2様式		(29.8)	—	(5.0)	外面部ナデ 内面部ナデ ハケメ	凹線文、刻目、突帯文		
15	6	9	2区	SD3001	最下層-3	壺 (須生土器)	IV-1様式		(28.0)	—	(6.7)	外面部ナデ 内面部ナデ ハケメ	凹線文		
15	7	9	2区	SD3001	最下層-3	甕 (須生土器)	IV-1様式		(24.4)	—	(16.0)	外面部ナデ ハラミガキ 内面部ナデ 横方向へラミガキ 指オサエ	凹線文、指頭圧痕部突帯、刺突文		
15	8	9	2区	SD3001	最下層-3	高环 (須生土器)	IV-1様式		(21.0)	—	(4.2)	外面部ナデ 内面部ナデ	凹線文、刻目		
15	9	10	2区	SD3001	最下層-3	壺 (須生土器)	V-2様式		(23.2)	—	(6.1)	外面部ナデ 内面部ナデ 指ナデ	櫛描直線文		
15	10	10	2区	SD3001	最下層-3	壺 (須生土器)	V-4様式		(17.0)	—	(6.5)	外面部ナデ 内面部ナデ ケズリ	櫛描波状文		
15	11	2区	SD3001	最下層-3	壺 (須生土器)	V-4様式			(16.4)	—	(6.8)	外面部ナデ 内面部ナデ ケズリ	櫛描直線文		
15	12	2区	SD3001	最下層-3	壺 (須生土器)	V-4様式			(16.5)	—	(6.2)	外面部ナデ 内面部ナデ ケズリ ミガキ	無輪羽伏文(貝殻使用)		
15	13	2区	SD3001	最下層-3	壺 (須生土器)	V-4様式			(19.8)	—	(5.7)	外面部ナデ 内面部ナデ ケズリ			
16	1	2区	SD3001	最下層-4	壺 (須生土器)				—	—	(4.6)	外面部ナデ 内面部ナデ ハケメ 風化のため調整不明	羽状文、沈線文		
16	2	2区	SD3001	最下層-4	紡錘車? (土製品)				円盤部 最大径 4.1	—	0.4	外面部ハケメ ミガキ 内面部ハケメ	未成品?、内面部に円形の窪み、土器の破片を再利用?		
16	3	2区	SD3001	最下層-4	壺 (須生土器)				—	(6.0)	(2.4)	外面部ナデ 内面部ナデ 指オサエ			
16	4	2区	SD3001	最下層-4	壺 (須生土器)				—	(6.8)	(3.0)	外面部ナデ 内面部ナデ 指オサエ			
16	5	2区	SD3001	最下層-4	壺 (須生土器)				—	(6.2)	(3.9)	外面部ミガキ 底部ナデ 内面部ナデ 指オサエ	高台付		

掲図番号	図版番号	出土位置	器種別	類型	型式	時期	法量(cm)			調整	備考
							口径	底径	器高		
16 6	2区 SD3001	最下層 -4	壺類 (弥生土器)				—	3.1	(2.0)	外面 ナデ 内面 ナデ	底部に1か所穿孔
16 7	2区 SD3001	最下層 -4	彫形器台 (弥生土器)				(22.2)	—	(3.2)	外面 ナデ 内面 ナデ 丁寧なミガキ	彫描直線文
16 8	2区 SD3001	最下層 -4	低脚環 (土師器)				(12.5)	—	(5.5)	外面 ナデ ヘラミガキ 内面 环部ヘラミガキ 脚部綫方向ナデ	口縁端部を欠く
16 9	2区 SD3001	最下層 -4	高环 (土師器)				—	—	(11.3)	外面 ミガキ 内面 环部ミガキ? 脚部ケズリ? 指突痕 棒状工具による刺痕 ナデ	外面部と环部内面に赤色塗彩
16 10	2区 SD3001	最下層 -4	瓶形土器 (土師器)				把手部幅 7.0	把手部径 4.0 前後	(13.6)	外面 把手部ナデ 内面 体部ナデ	把手
17 1 10	2区 SD3001	最下層 -4	高环 (須恵器)				—	—	(3.2)	外面 回転ナデ 内面 环部不整方向ナデ 脚部回転ナデ	
17 2 10	2区 SD3001	最下層 -4	甕 (弥生土器)	V-4様式			(20.6)	—	(8.0)	外面 ナデ 内面 ナデ ケズリ	刺突文、凹線文
17 3 10	2区 SD3001	最下層 -4	壺類 (弥生土器)	V-4様式			—	—	(5.8)	外面 ナデ ハケメ 内面 ナデ ケズリ	彫描直線文
17 4 10	2区 安山岩	最下層 -4	壺類 (弥生土器)	V-3様式			—	—	(4.2)	外面 ナデ 内面 ナデ ケズリ	彫描直線文
17 5 10	2区 SD3001	最下層 -4	壺類 (弥生土器)		中期以降?		—	(6.4)	(4.3)	外面 ミガキ 底部ナデ 内面 ハケメ 指オサエ	
17 6 10	2区 SD3001	最下層 -4	高环 (弥生土器)				—	(12.8)	(5.1)	外面 ナデ ケズリ	凹線文
17 7 10	2区 SD3001	—	壺類 (弥生土器)				—	—	(4.2)	外面 ナデ 内面 ナデ	彫描直線文、彫描波状文
17 8 10	2区 SD3001	—	环身 (土師器)	国府第9型式	11c後半 ~12c前半	—	4.5	(1.6)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ 底部指ナデ		
17 9	2区 SD3001	—	环身 (土師器)	無高台环	国府第9型式	11c後半 ~12c前半	—	4.2	(2.1)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ 底部指ナデ	
17 10	2区 SD3001	—	土製支脚 (土製品)				—	—	(6.3)	ナデ	
17 11 10	2区 SD3001	—	环盒 (須恵器)	蓋環C	国府第4型式 ~第4四半期	8c第3 ~8c第1四半期	—	—	(1.2)	外面 回転ヘタケズリ 回転ナデ 内面 回転ナデ 不整方向ナデ	扁平な珠つまみ
17 12 10	2区 SD3001	—	环身 (須恵器)	無高台环A	国府第2型式	7c未葉 ~8c第1四半期	(13.8)	(9.8)	3.6	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ	重ね焼きの痕跡
17 13 10	2区 SD3001	—	高台付环身 (須恵器)				—	(8.2)	(2.1)	外面 回転ナデ 底部回転ヘタ切り? 内面 回転ナデ	
17 14 10	2区 SD3001	—	長颈壺 (須恵器)				—	—	(6.8)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ シボリ目	沈線
17 15 10	2区 SD3001	—	甕 (須恵器)				—	—	(7.0)	外面 ナデ? タキ? 内面 ナデ 当具痕(同心円文)	内外面に自然釉
17 16	2区 SD3001	—	有孔土鍤 (土製品)				長 (3.3)	最大径 1.6	0.4	孔径	
17 17 10	2区 SD3001	—	磨石				—	7.5	7.0	3.5	デイサイト、254.9g、擦痕あり
17 18	2区 SD3001	—	楔形铁滓				—	3.1	2	1.5	
19 1 11	2区 SE3003	埋土	壺類 (弥生土器)				—	—	(4.4)	外面 ナデ ハケメ 内面 ナデ ハケメ	凹線文、指頭圧痕部突帯
19 2	2区 SE3003	埋土	小皿 (土師器)				(6.8)	(4.0)	1.5	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ	
19 3	2区 SE3003	—	环身 (土師器)				—	(6.0)	(1.5)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ	
19 4	2区 SE3003	—	环身 (土師器)	国府第10型式	12c後半~	(10.2)	(4.4)	2.6	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ		
19 5	2区 SE3003	—	环身 (土師器)	国府第10型式	12c後半~	—	(5.3)	(1.8)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ 底部ナデ?(螺旋状?)		
19 6	2区 SE3003	—	环身 (土師器)				—	(6.8)	(1.5)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ	
19 7	2区 SE3003	—	环身 (土師器)	国府第10型式	12c後半~	—	(5.8)	(2.2)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ 底部ナデ(螺旋状)		
19 8	2区 SE3003	2層	环身 (土師器)	国府第10型式	12c後半~	—	(4.2)	(2.4)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ 底部ナデ(螺旋状)		
19 9	2区 SE3003	2層	足高高台付环 (土師器)	国府第6~第8型式	9c中葉 ~11c前半	—	—	(2.3)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ 底部ナデ(螺旋状)		
19 10	2区 SE3003	—	鉢				—	—	(6.5)	外面 ナデ ハケメ 内面 ケズリ 横方向荒いカキメ? 後縦方向ナデ?	
19 11 11	2区 SE3003	—	楔形铁滓				—	7.0	6.2	4.7	
19 12 11	2区 SE3003	2層	釘				—	3.2	1.0	1.0	
20 1 11	2区 SD3004	上層	环蓋 (須恵器)	大谷分類 A5 ~A7型	大谷編年4~5期 (TK 209 ~TK 217)	580~619 620 ~639(7c前半)	—	—	(2.8)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ 不整方向ナデ	沈線
20 2 11	2区 SK3005	1層直上 (遺構検出面)	壺類 (弥生土器)				—	—	(8.2)	(2.5)	外面 ナデ 内面 ナデ
20 3	2区 SK3005	—	环身 (土師器)				—	—	(6.0)	(1.7)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ
20 4 11	2区 SK3005	上層	足高高台付环 (土師器)				—	—	(2.5)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	底部外面に「有興」の刻文
21 1 11	2区	2層搅乱	壺類 (弥生土器)				—	—	(4.3)	外面 ナデ 縦方向ハケメ 内面 ハケメ	彫描直線文、彫描波状文、凹線文
21 2 11	2区	2層	高环 (弥生土器)				(16.6)	—	(2.6)	外面 ナデ ハケメ 内面 ナデ ハケメ 口縁端部上面 ハケメ後ナデ?	凹線文
21 3	2区	2層	壺類 (弥生土器)				(21.2)	—	(3.1)	外面 ナデ 内面 ナデ	
21 4 11	2区	2層	壺類 (弥生土器)				—	4.4	(3.6)	外面 ミガキ 底部ナデ 内面 ナデ	両側穿孔(未貫通)
21 5 11	2区	2層黒色土	土製支脚 (土製品)				—	長さ (8.0)	(6.2)	ナデ ハケメ	
21 6 11	2区	2層搅乱	瓶 (土師器)				—	長さ 2.8	—	断面 最大径 2.3 ナデ	把手
21 7 11	1区	2層上面	环蓋 (須恵器)				(18.0)	—	(2.1)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	内面に灰被り
21 8 11	2区	2層黒色土	高台付环身 (須恵器)				—	(8.0)	(3.5)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	
21 9	2区 SD3001	2層黒色土	环身 (土師器)	無高台环	国府第9型式	11c後半 ~12c前半	—	(4.8)	(2.1)	外面 回転ナデ 底部回転糸切り 内面 回転ナデ	
21 10 11	2区 SD3001	2層黒色土	足高高台付环 (土師器)		国府第6~第7型式	9c中葉 ~10c前半	—	—	(5.2)	外面 回転ナデ 底部静止糸切り? 後指ナデ 内面 回転ナデ 底部ナデ(「の」の字状)と指ナデ?	
21 11 11	2区 SD3001	2層黒色土	足高高台付环 (土師器)		国府第7型式	10c前半	(14.2)	8.1	7.0	外面 回転ナデ? 内面 回転ナデ?	

写真図版



2区 調査前の状況（東から）



1区 調査前の状況（北から）



1区 調査状況（北から）

図版2 2区全景



2区 調査状況（東から）



2区 調査状況2（東から）



2区 調査状況3（北から）



SD3001 検出状況（南東から）



SD3001 掘削途中の状況（南東から）



SD3001 完掘状況（南東から）



SK3002 完掘状況（北から・東壁）



SE3003 調査中（北西から）



SD3004 調査中（北から）

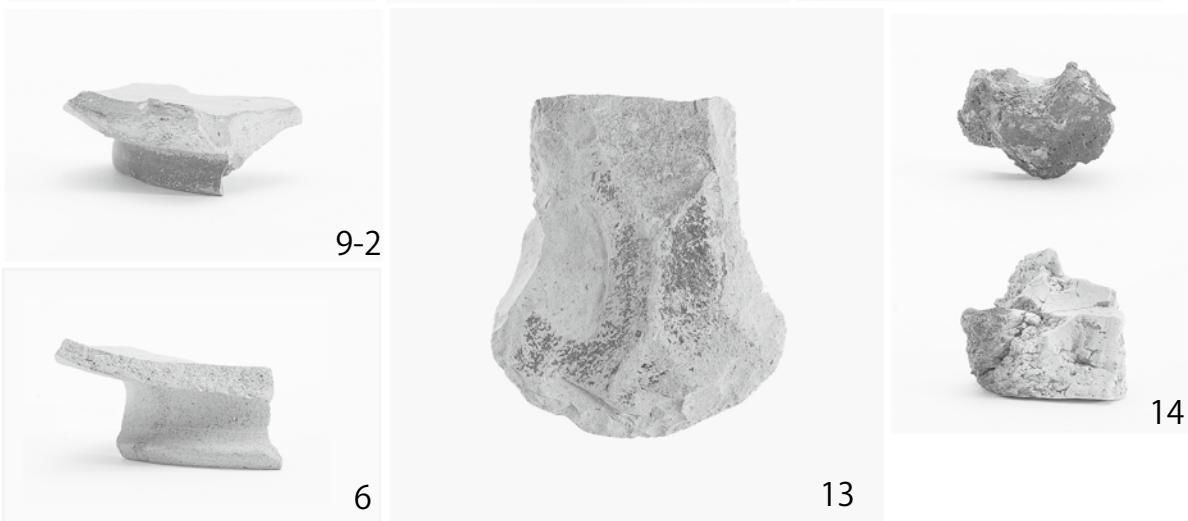
図版6 SK3005・発掘調査の状況



SK3005 完掘状況（南から）

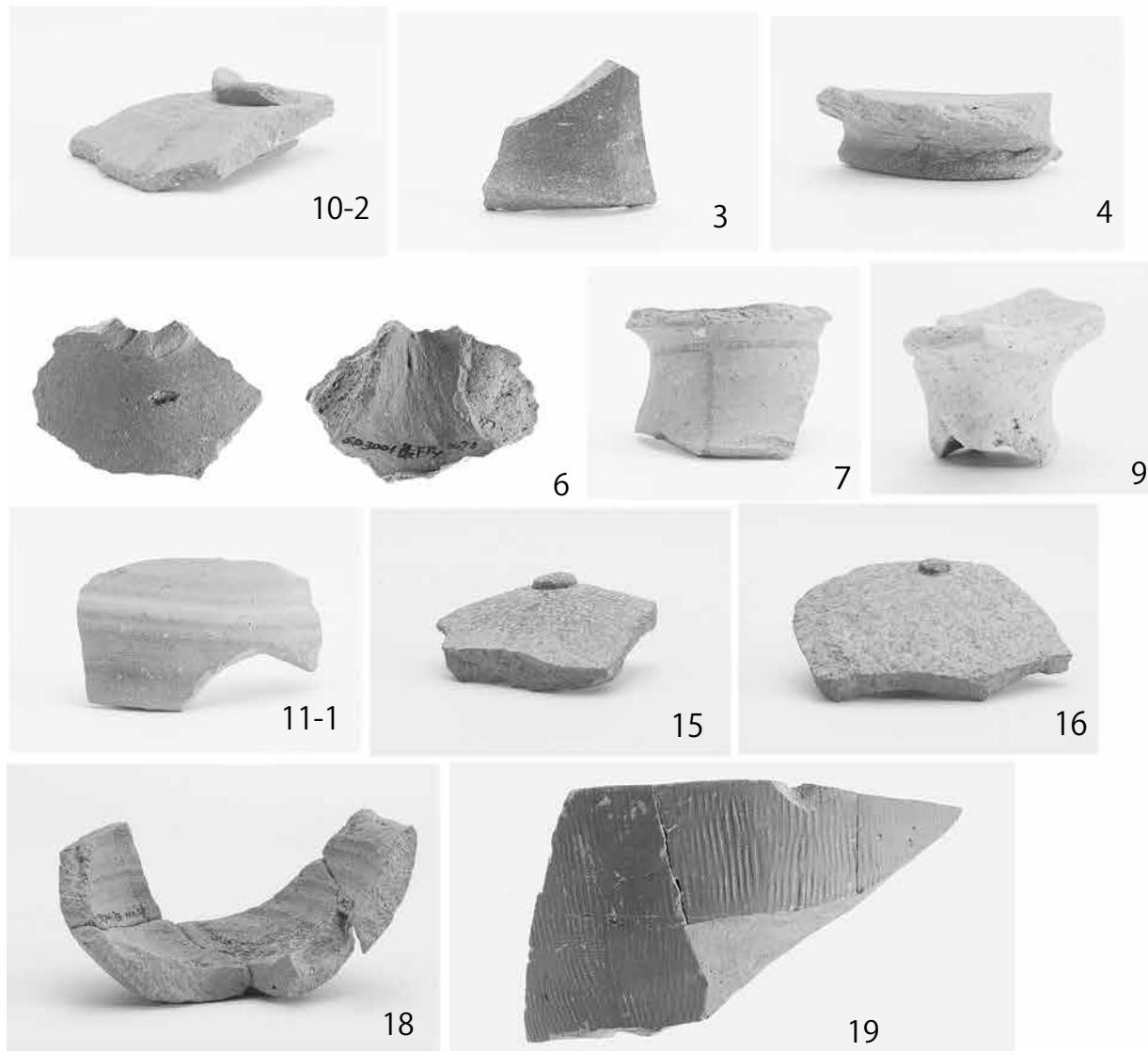


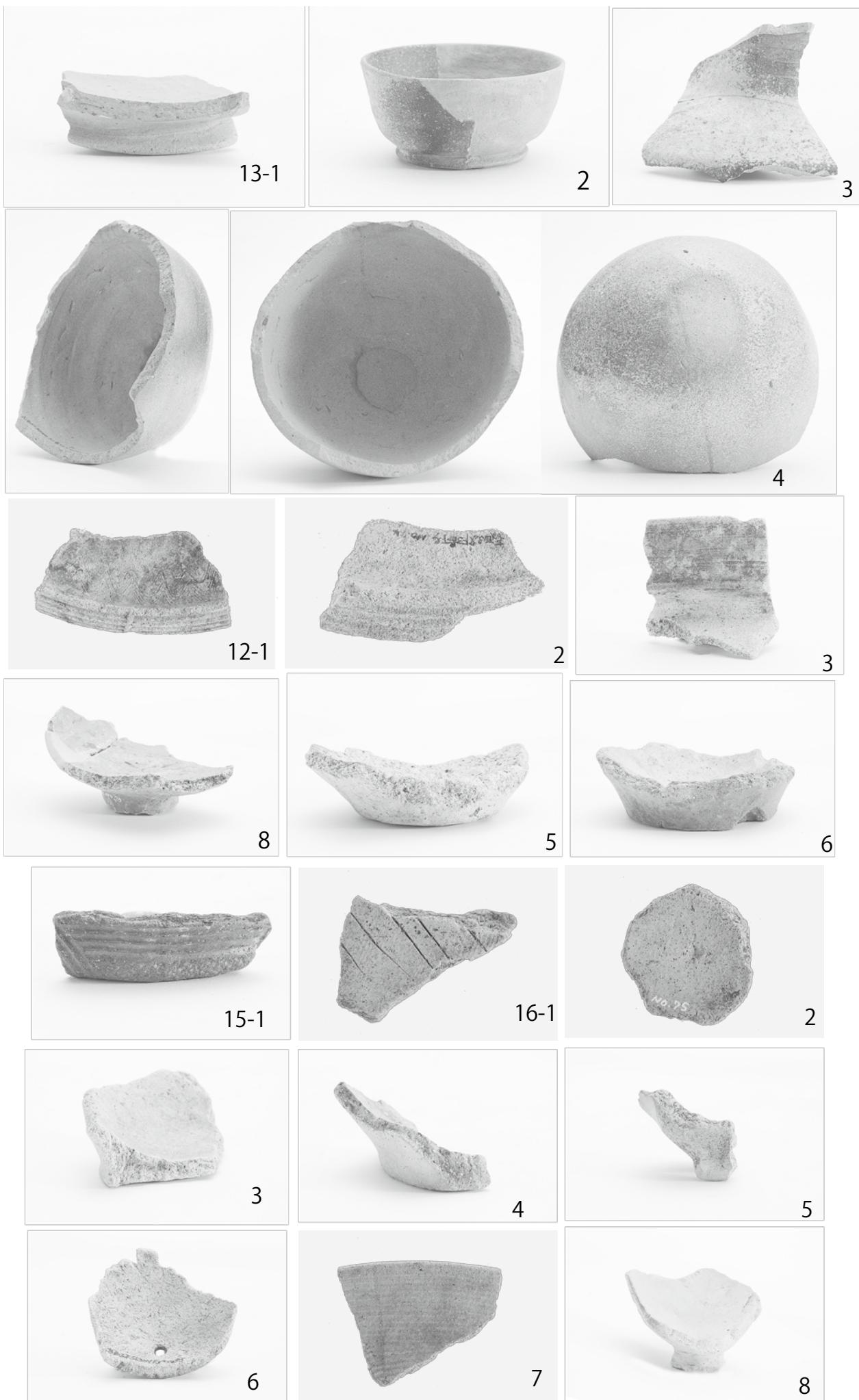
発掘調査の状況（南西から）





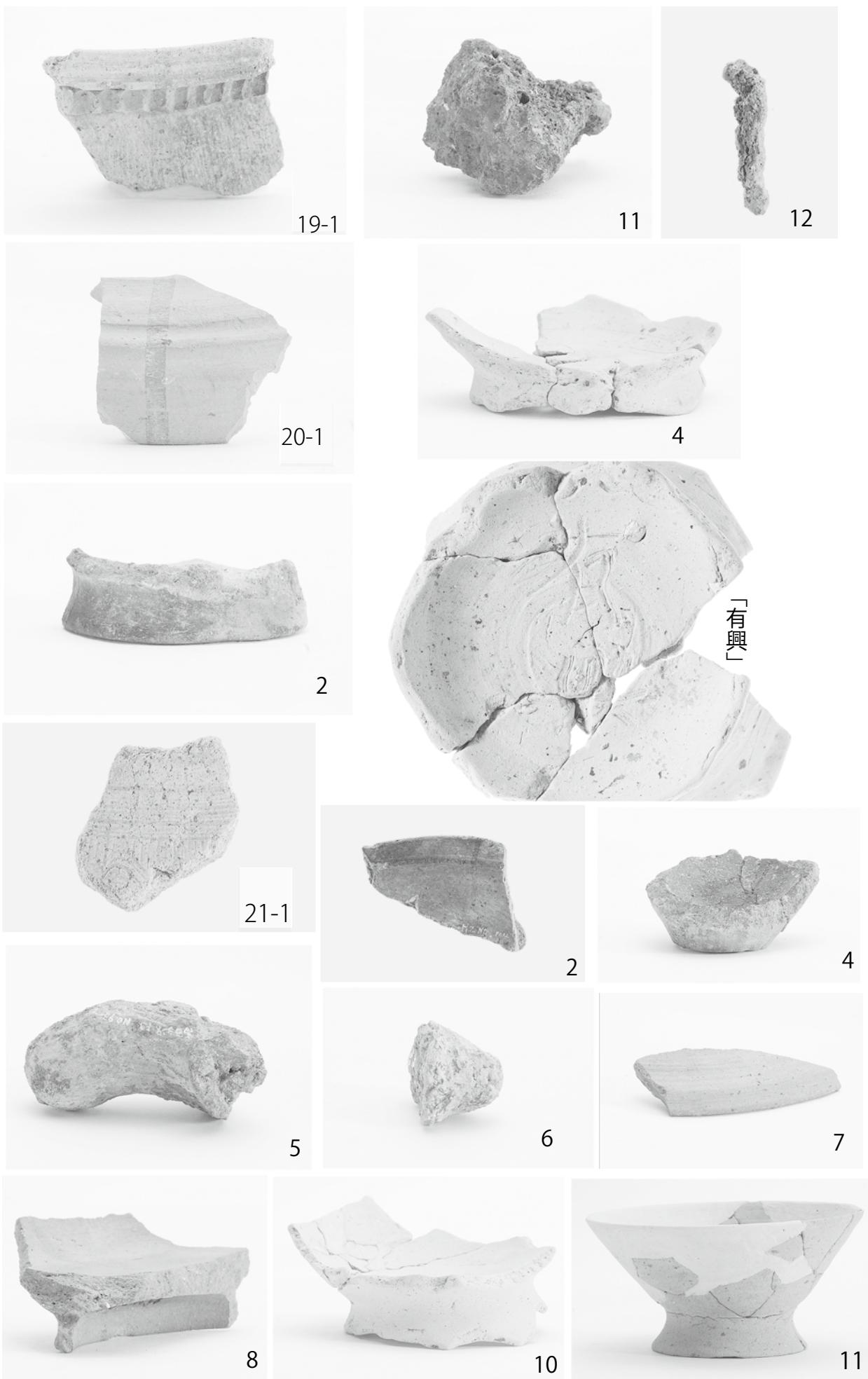
最下層出土須恵器





図版 10 SD3001 土師器・弥生土器・須恵器・石製品





報告書抄録

出雲市の文化財報告書 59

高西遺跡Ⅲ

第3次調査発掘調査報告書

令和7年(2025)3月

編集 出雲市市民文化部文化財課
〒693-0011 島根県出雲市大津町 2760
TEL (0853) 21-6618

発行 出雲市教育委員会
〒693-8530 島根県出雲市今市町 70
TEL (0853) 21-6874

印刷・製本 有限会社 福間秀文堂